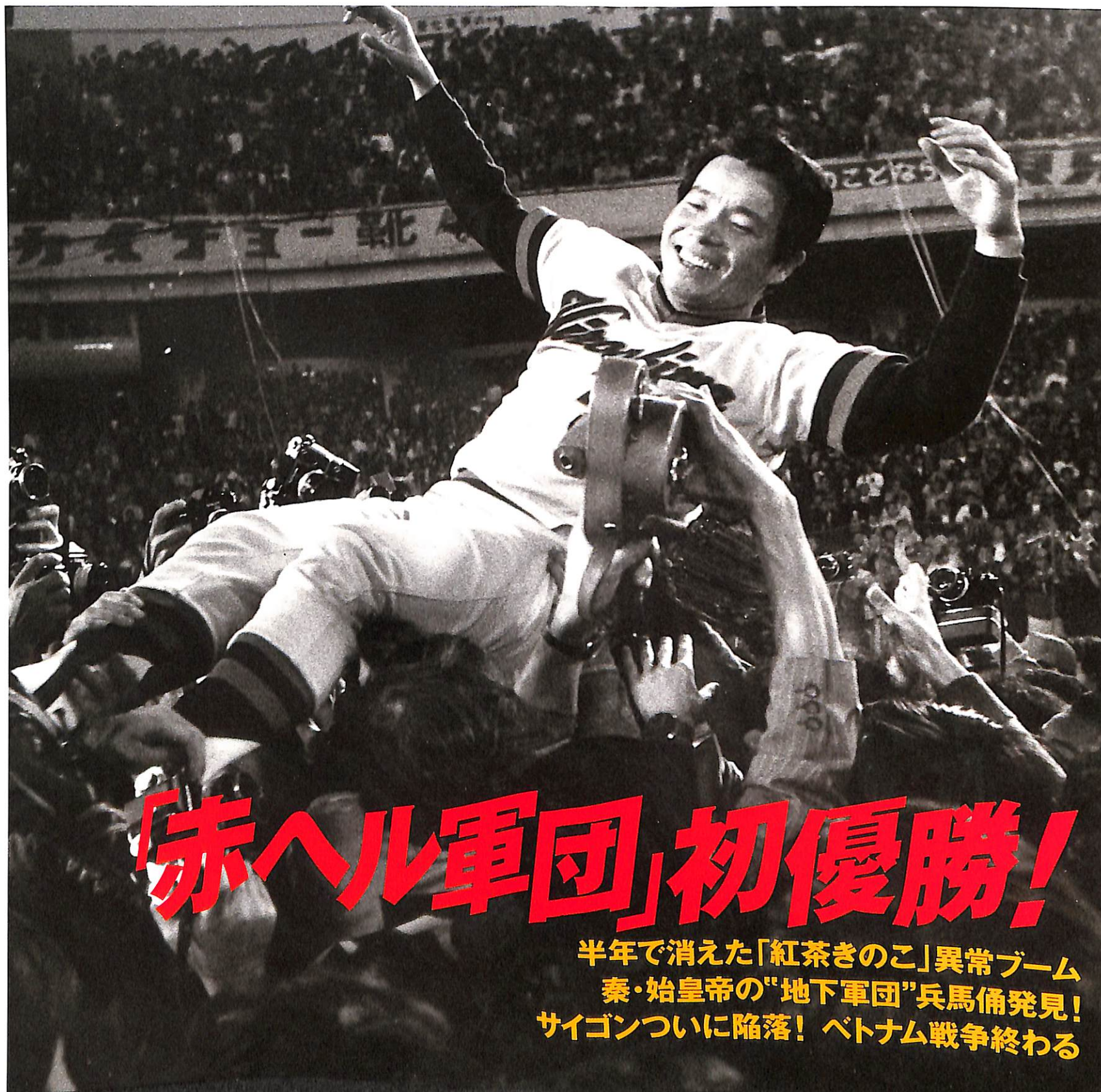
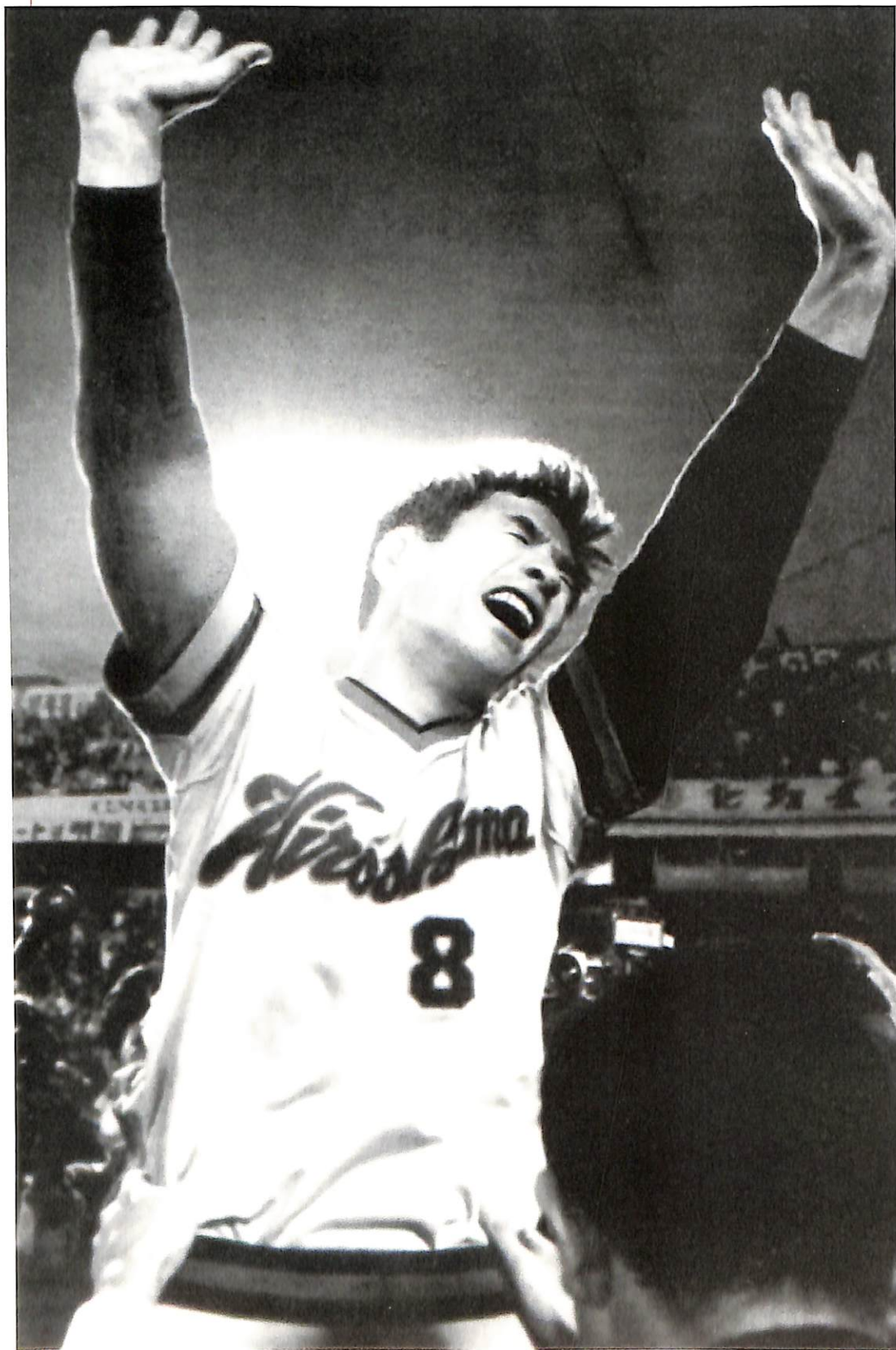
週刊 YEAR BOOK

1975
昭和50年

日録20世紀

10|7
平成9年10月7日発行
(毎週1回発行)第1巻第32号
¥560
講談社

「赤ヘル軍団」初優勝!

半年で消えた「紅茶きのこ」異常ブーム
秦・始皇帝の"地下軍団"兵馬俑発見!
サイゴンついに陥落! ベトナム戦争終わる

広島の復興とともに歩んだ26年
選手もファンもOBも、誰もが泣いた
「赤ヘル軍団」、悲願の初優勝！

◀初優勝の立て役者、山本浩二外野手。マイクを向けられても、感激のあまり言葉も出ない。スタンドのファンに向かって号泣するばかりだった。 中国新聞社

昭和五〇年一〇月一五日——原爆の爪痕がいまだ残っていた昭和二四年に誕生した広島カープが、球団設立二六年目にして、ついに悲願の初優勝をとげた。ファンの手で育てられた〝市民の球団〟の歴史は、広島の復興の歴史でもあった。

三〇万人が集った涙の優勝パレード

「本当にカープは優勝したんですね」報道陣に何度も念を押す古葉竹識監督(三九)、お立ち台で男泣きする山本浩二外野手(二八)。選手もファンもOBも、誰もが泣いていた——。

昭和五〇年一〇月一五日の後楽園球場、巨人—広島戦。今シーズンから帽子の色を赤に変え「赤ヘル軍団」と呼ばれた広島東洋カープは快進撃を続け、優勝まであと一勝に迫っていた。

1—0とカープ一点リードで迎えた九回表二死一、二塁。カープの三番打者ホプキンス(三二)の放った打球は右翼スタンドに突き刺さった。

「夏頃から広島市内のあちこちに応援の垂れ幕が下がり、ファンの期待が痛いほど伝わってきた。プレッシャーで地に足がついていなかったのか、試合内容もほとんどおぼえていないんです」と語る衣笠祥雄は当時二八歳。しかし、今もこのシーンだけは忘れないという。

4—0。がぜん盛り上がるカープ応援団。そして九回裏二死、ジャイアンツ・柴田勲(三一)の打球は、レフト・水谷実雄(二七)のグローブにすっぽりと収まった。午後五時一八分、ゲームセット。

▶10月15日の対巨人最終戦、9回表2死からカープの3番ホプキンスが放った3点本塁打。優勝を決定的にした瞬間だった。 中国新聞社

◎表紙　就任1年目でセリーグを制した古葉竹識監督。夕焼け空の後楽園で、勝利の胴上げに監督の体が何度も宙を舞った。 中国新聞社

広島の復興とともに歩んだ26年
選手もファンもOBも、誰もが泣いた
「赤ヘル軍団」、悲願の初優勝！

▲優勝が決まった10月15日、深夜の広島市流川通り。あちこちで四斗樽が割られて酒がふるまわれ、繰り出した市民たちは26年間待ちこがれた勝利の味に酔いしれた。　中国新聞社

球団創立二六年目、「太陽が西から上っても優勝することはない」と揶揄されたチームが、優勝を決めた瞬間だった。

マウンド上で抱き合う金城基泰投手（二三）、水沼四郎捕手（二八）のバッテリー。外木場義郎投手（三〇）、シェーン外野手（三〇）、大下剛史内野手（三三）らチームメイトも次々に駆け寄る。「勝ったぞー」。どよめく五万の大観衆。紙吹雪が舞い、およそ五〇〇〇人のファンがグランドになだれこんだ。

時を同じくして広島県下では、職場やお茶の間、街頭でテレビにかじりついていた人々から「バンザイ」の声が沸き上がった。くす玉が割れ、祝砲の花火や汽笛が轟き、提灯行列が練り歩く広島市。午後七時半から車両通行止めとなった繁華街・流川通りは、誰かれとなく抱き合い握手を求める人々で埋まった。酒場の飲み食いは無料。市内三署には名前を聞いても「カープ」とだけ答えるような酔漢四四人が保護された。平日の夜にもかかわらず、一六日午前三時までに延べ八万五〇〇〇人が繁華街に繰り出し、お祭り騒ぎは早朝まで続いた。二〇日、広島市平和大通りで行われた優勝パレードには、広島市始まって以来の三〇万人が詰めかけ、一週間ほどは、どこへ行ってもカープ優勝の話でもちきりだった。

〝できの悪い息子〟がついにつかんだ栄冠

広島東洋カープ（設立時・広島野球倶楽部）は、原爆の爪痕もなまなましい昭和二四年一一月に誕生した。翌年一月には二万人のファンに祝福されて球団結成式が行われたが、広島県と広島、呉、福山などの五市、県下の一般企業や個人の出資で設立されたカープは、創立当初から資金難に苦しんでいた。初シーズンの五月には選手の給料遅配が始まり、加盟金・分担金も支払えず、セントラル野球連盟の加盟取り消しも取りざたされた。

「みんな、つぎはぎだらけのユニフォームを着ていてねぇ。球場だって外野フェンスがなく縄が張ってあるだけ。広島の選手が打つと『ホームラン、ホームラン』って縄を前に押し出して、よく怒られていましたよ」と、当時を振り返るのは広島出身の作家・佐々木久子氏（六七）だ。

こうした窮状を救ったのはファンの力だった。県や市、企業、個人から集まった救援金は二五〇〇万円。最下位ながらも、なんとか一シーズン目を乗り切った。

「町内会に奉加帳がまわり、球場前の募金箱代わりの酒樽に、小学生までがお小遣いを寄付した。食べ物など差し入れする人もたくさんいました」（佐々木氏）

しかし、あいかわらずの資金難に、二六年には一時、球団解散の危機におちいる。当時の石本秀一監督はチームの指揮を白石勝巳助監督にまかせ、後援会結成と資金集めに奔走した。「カープあやうし」の報にわずか一〇日で三〇〇〇人が後援会に参加、この年の支援金は四〇〇〇万円に達した。四二年に経営は東洋工業（現・マツダ）に移行したが、ファンにとってカープは、昔も今も文字どおり「市民の球団」なのである。

「たかがプロ野球かもしれませんが、敗戦後、七五年は草木も生えないと言われていた広島には夢も希望もなかった。そうした状況の中で、ファンはカープを自分の子どものように育ててきました。だからこそ、あれだけ優勝を喜んだのです」（佐々木氏）

昭和四三年に一度Aクラス入りした以外は、常にBクラス。四七年から三年連続最下位を続けていた〝できの悪い息子〟は、ついに栄冠をつかんだ。それはまた、広島の新しい時代の幕開けだった。

カープ優勝への26年の軌跡

昭和	
24年	11月28日、セントラルリーグへの参加承認。
25年	3月10日、セリーグ開幕。14日、地元第1戦で対国鉄に16—1と快勝。41勝96敗で首位と59ゲーム差の最下位。
26年	3月14日、役員会で解散決定。石本監督は後援会作りに奔走。6月17日、地元・広島でのダブルヘッダーに初の連勝（対松竹）を祝ってビール、酒が原価で販売される。
28年	長谷川良平投手が球団初の20勝投手に。
31年	広島野球倶楽部から広島カープに組織変更。
32年	7月22日、広島市民球場完工式・ナイター点灯式開催。1万5000人が詰めかける。
35年	10月5日、最終戦（対大洋）に勝ち、初の勝率5割を確保。
37年	7月26日、広島で初のオールスター戦開催。森永勝也外野手が首位打者獲得（打率 .307）。
38年	首位・巨人に25ゲーム差の最下位。
39年	古葉竹識内野手が盗塁王獲得（57個）。
40年	10月2日、外木場義郎投手がプロ入り初勝利でノーヒット・ノーラン達成（対阪神）。
42年	12月、チーム名を広島東洋カープに改称。
43年	68勝62敗で球団初のAクラスを確保。
45年	8月4日、山内一弘外野手が史上初の4000塁打を達成。
46年	8月19日、藤本和宏投手がノーヒット・ノーラン（対中日）。最優秀防御率も獲得（1.71）。
49年	54勝72敗で、3年連続最下位に。10月21日、ルーツ監督就任（日本初の外国人監督）。帽子の色を真っ赤に。
50年	4月、審判とのトラブルが原因でルーツ監督退団、5月、古葉コーチが監督に。7月19日、オールスター戦で山本浩二外野手、衣笠祥雄内野手がそろって2打席連続ホームラン。10月15日、初優勝。●個人タイトル＝山本浩二／MVP、首位打者（.319）、外木場義郎／沢村賞、最多勝（20勝13敗）、大下剛史／盗塁王（44個）

▲9代目監督ジョー・ルーツ。

▲初代監督の石本秀一。　共同通信社

▶優勝争いのペナントレース後半から、広島市内のデパート、スーパー、食料品店は、バーゲン合戦を繰り広げた。　朝日新聞社

〝一億総半病人〟時代に突如出現！

愛好者二〇〇万人を生んで半年で消えた「紅茶きのこ」異常ブームの顛末

茶褐色の液に浮く「紅茶きのこ」が癌や胃弱、水虫からアレルギーまで万病に効くと一大センセーションを巻き起こした。健康不安の時代を背景に、マスメディアがあおり立てた一過性の突発的ブームだった。だが、その後もこの種の健康法ブームは今日まで、手を替え品を替え、繰り返されている。

ブームのきっかけはワイドショーだった

それはテレビというメディアの持っているすさまじいまでの情報伝播力を、まざまざと見せつけた出来事であった。昭和五〇年三月三日放送のTBS系ワイドショー「3時にあいましょう」で紹介されるや、「紅茶きのこ」はたちまちのうちに誰一人知らないもののない言葉になったのである。

実は「紅茶きのこ」は、前年一二月に出版された『紅茶キノコ健康法』という単行本によって初めて紹介されたのだった。しかし、目にとまるほどの売れ行きではなかったのである。ところがワイドショーで、高血圧に効果的、子宮癌で今日か明日か、と宣告された患者が半月で旅行に出かけられるほどに回復、美容にもうってつけ、と放送したのをきっかけにいっきょに話題の焦点となった。

「希望者には無料で菌をお分けします」と放送したTBSには、一〇万通の応募ハガキが殺到し「担当ディレクターが腰を抜かした」と女性週刊誌が報じた。そして出版元でも、五万通の問い合わせでてんやわんや。

このかっこうの話題に週刊誌が飛びつかないわけはなく、芸能誌はもとより、男性誌にいたるまで、手を替え品を替えこの話題を報じた。ある女性誌は、芸能人の「紅茶きのこ」をめぐる〝相関図〟まで登場させる始末。ひきも切らない情報の中で、くだんの単行本は増刷に増刷を重ね、この種の本としては異例の四三万部に達したのだった。

「紅茶きのこ」は、紅茶に生菌を加え発酵させたもの。液面に茶褐色のクラゲ状ともきのこ状とも見える菌の塊ができることからこの名で呼ばれた。この培養液をただ飲めばよいという手軽さと経費の安さもブームに拍車をかけた。実際テレビや週刊誌に著名人が多数登場し、効能を述べ立てたのである。作家の丹羽文雄が「便通がよくなり、額がぴかぴかと光って精気あふれる感じになる」と言えば、女優・山田五十鈴は「悩みの神経性の下痢が止まった。肩こりもとれ、肘や膝の硬くなった皮膚も柔らかくなった」と言い、さらには坂田道太防衛庁長官（後の衆議院議長）までが登場し、「医者に調べてもらったらコレステロールが減ってきている」と「紅茶きのこ」礼賛のオンパレードが続いた。

菌の正体は、結局のところ解明されないままに終わったが、酢酸菌説が有力だった。「効能」はメディアに取り上げられるたびに広がり、冒頭にあげたほか、胃潰瘍、胆石、アレルギー、禿頭症、前立腺肥大、糖尿病、リウマチ、水虫などに著効があると言われた。「紅茶きのこ」は、一部では法外な値段で売買されたケースもあったが、ほとんどが、人から人へただでばらまかれ、またたく間に日本全土を席巻した。一説には、愛好者が二〇〇万人を超えたとされる。

オウム真理教の幹部で平成七年に刺殺

読売新聞社

▶培養された紅茶きのこ。分析によれば、水分以外の90パーセントは酢酸菌だった。培養後2週間すると、半透明の膜(菌体)ができる。

▶ベストセラーとなった『紅茶キノコ健康法』(地産出版)。菌体の申込書つきだった。

された村井秀夫は高校時代に「紅茶きのこ」ブームと出くわし、昼休みには図書室で「紅茶きのこ」の研究に没頭していた、という。そしてついに「紅茶きのこ」は国内だけでなく、アメリカ、西ドイツ、カナダ、ブラジルにまで飛び火する国際的ブームに発展したのである。

一方、ブームが過熱するにつれ、「効能」に対する疑問も噴出した。医学的見地からは、これほど多方面の効果があるとは考えられない、というオーソドックスな見解をはじめ、雑菌がまじったり、病原菌の温床となる可能性があるなどの意見が相次いだ。こうした中で、ブームは秋口には急速に衰退し、年末恒例の回顧記事には「まだ飲んでいる人がいる」

▲「紅茶きのこ」にあやかってか、古来から漢方薬とされたサルノコシカケも脚光をあび、自宅で栽培する人まで現れた。 読売新聞社

というトーンすら登場するのである。

現れては消える健康法・健康食品

昭和四〇年代後半から、さまざまな健康法・健康食品が次々とはやり、そして急速にすたれるという繰り返し現象が起きるようになっていた。その一方で、四九年に「壮快」が創刊されたのをはじめ、健康専門雑誌が数誌出現している。重化学工業化を軸とした高度成長期以降、無数の有害物質が生活のあらゆる領域に浸透し始めたのと並行して、肉食中心の食生活への変化、さらには「飽食の時代」のはしりが到来して、カロリーの過剰摂取が加わり、成人病が増加し始めていた。「一億総半病人時代」というコピーすら生まれてきた。厚生省の調査によれば、日本人の八割以上が自分の健康に不安を抱えていると答えるようになったのもこの頃からだ。

「紅茶きのこ」ブームの二年後には「ぶら下がり健康器」とルームランナーの二大健康器具が大流行し、その後、相次いで、月見草オイル、甘茶蔓、クロレラ、飲尿、DHA、ノーパン、酢大豆、野菜スープなどの民間療法型の健康法が現れては消えていった。

こうした現象を女子栄養大学の村上紀子教授は次のように見る。

「健康のために何かしなければ、と焦るところへ『手軽』で、しかも『ブームですよ』と報道された健康法となると、飛びつく人も多い。効果の真偽はどうあれ、時代の関心事である『健康』にかかわる話題を共有すること自体が面白いのでしょう。今後も『世に健康情報の種は尽きまじ』でしょうね」

▲ブームの仕掛け人と言われた、元読売新聞記者・小川清。 共同通信社

女たちの肖像

ウーマン・リブのアダ花か〝ピル解禁〟の先駆者か「中ピ連」榎美沙子の闘い

稲葉真弓

「♀」マークを印したピンクのヘルメットに黒覆面のいでたちで、男たちのど肝を抜き、震えあがらせた「中ピ連（中絶禁止法に反対しピル解禁を要求する女性解放連合）」が榎美沙子によって設立されたのは昭和四七年六月のことだったが、国際婦人年の五〇年には、会員は二〇〇〇人を超え、その〝軍団〟は猛威をふるった。当時、彼女は三〇歳。

まず「中ピ連」で優生保護法改正反対、男女平等を唱え、ピンクヘル軍団でデモや集会を開いたほか、四九年夏には「女性を泣き寝入りさせない会」を結成、浮気や離婚の慰謝料問題で女性を泣かせる男性の職場に押しかけたり、ピル（経口避妊薬）の危険性を指摘する東大医学部の講師をヤリ玉にあげるなど男性論理を片っ端から批判、活動がピークを迎えたこの年、彼女は話題の人として注目をあびた。

榎美沙子はしばしば揶揄をこめて「ウーマン・リブ運動の生んだアダ花」と称されるが、そう言われるにはわけがあった。

五一年〝完全なる女性社会〟を実現するため「女性復光教」なる宗教団体を創設、みずから女性教の教祖となり五二年参院選をめざし「日本女性党」を結成、一〇人の公認候補にミリタリー・ルックの制服を着せ全員に榎姓を名乗らせるなど劇画的活動を見せたが、選挙では全候補が落選。敗退した七月、突然「中ピ連」「日本女性党」を解散し、「愛する夫のため尽くします」と宣言して家庭にひきこもってしまった。

その打ち上げ花火のような行動が「アダ花」と称される所以だが、彼女が躍起になってめざした「ピル解禁」は、二〇年近くを経た平成九年六月、ようやく容認に向けて動き始めた。

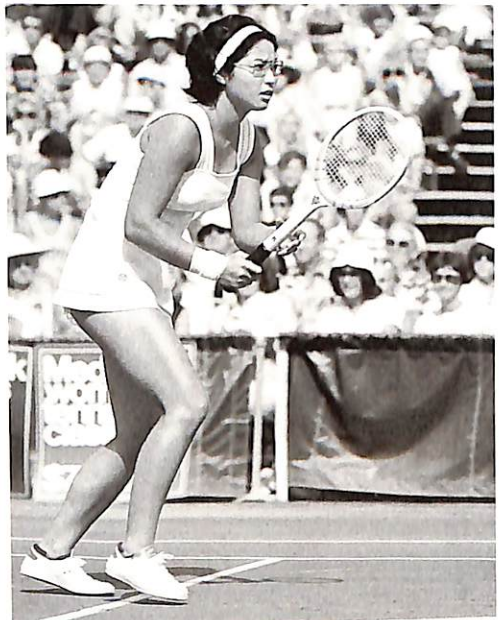
昭和二〇年一月、徳島県名西郡に生まれた彼女は、少女時代から政治経済の本を読む才媛として知られていたが、京都大学薬学部を卒業後、高校の先輩である医師と結婚した。この頃、ピルの存在を知り、みずからを実験台にしてテストを開始、四七年妊娠中絶を規制する優生保護法改正案が出された時、「中絶の権利」を掲げて俄然立ち上がったのだが、参院選を含む運動が失敗に終わった後、理解者であった夫との関係も破綻。離婚後は一時女子大生相手の塾、翻訳業をなりわいにしていることが報じられたが、マスコミの第一線からは姿を消したままである。

▶「ピンクヘル」姿で、マスコミをにぎわした。

勝者・敗者

日本人女性初の快挙！ウィンブルドン・テニス沢松和子「無心」の優勝

阿部珠樹

川廷榮一

▲この年の世界ランキング8位のトップ・プロだった。

昭和五〇年七月五日、ロンドン近郊ウィンブルドンのセンターコートには、二人の東洋人が立っていた。全英選手権女子ダブルス決勝。ペアを組む東洋人は、日本の沢松和子（二四）と日系三世アメリカ人のアン清村（一九）である。日本人がウィンブルドンの決勝に進んだのは昭和九年、混合ダブルスの三木竜喜以来のことだった。

アン清村は日系だが、日本語は話せない。だが、すでに六回の大会でペアを組んだことのある二人のコンビネーションは抜群だった。

沢松は、一七三㌢の長身を生かし、安定したストロークを繰り出す。一五五㌢と小柄な清村は、機敏に動いてネットをとり、ボレーを決める。対戦相手は、男勝りのサーブと力強いショットを武器にするフランスのデュールとオランダのストーブのペア。力と技のぶつかり合いである。

試合は第一セットから接戦となるが、沢松・清村のペアは、七―五でしぶとくものにする。第二セットは一方的に押しまくられて失うが、第三セットに入ると、沢松ペアに第一セットの粘りが蘇ってきた。取ったり取られたりの展開のすえ、第一一ゲーム。最後は清村のショットが相手コートに突きささった。八七回を数えるウィンブルドンの長い歴史の中で、初めて日本人女性が頂点に立った瞬間である。

沢松は、姉の順子とともにテニスの英才教育を受け、早くからその才能を注目されていたが、この大会の前は、壁に突きあたった形で伸び悩んでいた。しかし、苦手のバックハンドを徹底して練習することで、きっかけをつかみ、初の快挙につなげたのである。

清村と二人で優勝カップを掲げ、歓呼にこたえた沢松は、「優勝できるなんて夢のよう。無心にやったのがよかったんでしょう」と謙虚に語った。そのコメントは淡いピンクのリボンをつけた女学生風のたたずまいにふさわしい、控え目なものだった。

ニュース・ファイル

1975

フォト＋日録で再現する365日

プロ野球の広島カープが悲願の初優勝をとげたこの年、日本の高度成長は終わりを告げる。戦後最大規模の倒産が起こり、赤字国債の発行が決まり、翌年の就職難が喧伝された。そして、三〇年におよんだベトナム戦争も終結し、第一回サミットがパリ郊外で開かれた。

◀**ジーンズ姿の闊歩(9月)** 従来の夫婦とは異なる友人のような関係の若い夫婦がふえ、「ニューファミリー」と呼ばれた。おもに昭和47年頃から結婚適齢期を迎えた団塊の世代で、ジーンズ姿は彼らの象徴だった。

毎日新聞社

読売新聞社

▲**日独交歓サッカー(1月5日)** 欧州チャンピオンのバイエルン・ミュンヘンは1974年W杯得点王のミュラーと"帝王"ベッケンバウアー(左)を擁する強豪。日本代表は5日、7日の2試合を0−1と健闘。

▼**岸恵子、離婚(1月20日)** 映画出演のため帰国し、フランスの映画監督イブ・シャンピと協議離婚したと羽田空港で発表。岸は昭和28年に「君の名は」で一躍スターになり、31年の結婚以来パリに住んでいた。

報知新聞社

共同通信社

▲**歌舞伎の坂東三津五郎、ふぐ中毒死(1月16日)** 人間国宝の8世三津五郎が京都南座に出演中、ふぐの肝を食べて死去。68歳だった。写真は28日、東京・青山斎場での葬儀。

▼**最後の木曽駒死ぬ(1月17日)** 純血種は長野県開田村のこの1頭のみとなっていたが、人間で言えば100歳。自然死を待つと肉体が破壊されるので、馬体保存のため、安楽死させ剥製にした。

読売新聞社

毎日新聞社

▲**マラッカ海峡で日本のマンモスタンカー「祥和丸」が座礁(1月6日)** 原油4500キロリットルが流出、インドネシアは日本に対して補償請求を決めた。

▶**神奈川県三浦市で大火(1月19日)** 遠洋漁業基地として知られる港町・三崎で、異常乾燥と強風のため漁港近くの住宅密集地が燃え、38棟が全半焼し、69世帯229人が罹災。原因は放火だった。

読売新聞社

昭和50年1月

1(水) ●愛国―幸福以来の駅名あやかり切符ブームで、国鉄烏山線大金駅の入場券四二九八枚売れる。

2(木) ●東大医学部で人工心臓を埋めこんだ山羊が一カ月生存。世界第二位の記録。

3(金) ●三ヵ日の初詣で客が五九五〇万人の史上最高記録、川崎大師など著名寺社は大幅減。
●箱根駅伝で大東文化大が初の完全優勝。

4(土) ●男性長寿一位は東京、女性は岡山と厚生省。

5(日) ●環境庁、初の「緑の国勢調査」発表。国土の八割が開発され、海岸線の二割が人工海岸線。

6(月) ●タンカー「祥和丸」、マラッカ海峡で座礁。

7(火) ●毎日放送「まんが日本昔ばなし」の放映開始。

8(水) ●モロタイ島で発見された台湾出身の元日本兵李光輝(中村輝夫)、三一年ぶりに台湾に帰国。

9(木) ●東京の法人所有地が一一年で四四％増と判明。

10(金) ●日立製作所、管理職・役員の給与カットを発表。

11(土) ●高速道料金の平均六六・五％値上げを認可。

12(日) ●一〇日来の大雪で国道八号線ではトラックなど七〇〇台が二日間立ち往生。

13(月) ●前年の倒産一万一六八一件で過去最高と判明。

14(火) ●東京の大衆演劇場「千住寿劇場」が閉館。

15(水) ●近鉄、早大を破り七年ぶりラグビー日本一。国立競技場に東京五輪以来の六万人の観衆。

16(木) ●先進一〇ヵ国蔵相会議、オイルダラー還元策・金融援助協定締結などの共同声明発表。

17(金) ●日本在来馬「木曽駒」の最後の一頭が死に絶滅。

18(土) ●「太りすぎ」が前年比三％減と国民栄養調査。

19(日) ●三浦市で大火。三八棟全半焼、二二九人罹災。

20(月) ●岸恵子、イブ・シャンピとの離婚を公表。

21(火) ●私大連盟、四二社が就職内定取り消しと発表。

22(水) ●十大商社の株保有額が八年で七倍と公取委。

23(木) ●大阪万博の「太陽の塔」を永久保存と決定。

24(金) ●東京都個人タクシー協会、乗客激減で無線による呼び出しの割増料金廃止と決定。

25(土) ●筑波大の学生寮入居制限問題で学生が団交。

26(日) ●女子バレーの日立、五四連勝でストップ。

27(月) ●プロ野球の金田正一の四〇〇勝記念ボールとグラブが大リーグの殿堂入り。

28(火) ●体協、アマ選手の広告出演を条件つき認可。

29(水) ●シャープ、八桁表示七九〇〇円の電卓発売。

30(木) ●厚生省、死亡事故続く三種混合ワクチンの予防接種一時中止を指示(3月19日継続決定)。

31(金) ●エチオピアでエリトリア解放戦線が政府軍を攻撃開始。内戦に突入。

▶**間組、爆破される(2月28日)**東京本社(写真)6階と9階、大宮工場でほぼ同時に時限爆弾が使われ5人が重軽傷を負った。3月2日「東アジア反日武装戦線」が犯行声明。

◀**雪で羽田空港閉鎖(2月21日)**強い寒気団が日本列島を直撃し、滑走路に11センチも雪が積もったため、朝から約8時間閉鎖され、国際・国内線159便が欠航した。雪による羽田の閉鎖は昭和44年以来。

朝日新聞社

読売新聞社

共同通信社

◀**零歳時の水泳教室(3月)** 1960年代に欧米で始まり、体力向上や人間形成に効果があると紹介されたため、教育熱心な母親たちを刺激、流行した。写真は東京のプールで泳ぐ乳児。水になれることが、まず目的だった。

読売新聞社

◀**反体制詩人の金芝河釈放(2月15日)**前年7月、民青学連事件で無期懲役判決を受けていたが、朴韓国大統領の「国民総和実現のため」の措置により釈放された(中)。しかし、3月には再び反共法違反で逮捕される。

WWP

▶**18歳のステンマルク、逆転優勝(2月21日)**新潟県の苗場スキー場で行われたアルペンスキーのW杯大会男子大回転で1本目3位から優勝。スウェーデンが生んだ天才は翌年総合優勝し、初の10代アルペン王者となる。

昭和50年2月

1(土)●全国の地価が平均九・二%下落と国土庁発表。
2(日)●私鉄各社が縁起よい駅名探しに懸命と新聞に。
3(月)●パリ行き日航機で集団食中毒。一四五人入院。
4(火)●警察庁、暴力団稲川会一斉手入れで二六〇人逮捕(6日山口組手入れで二五一人逮捕)。
5(水)●今市市で教師の教え方が悪いと二二回にわたり爆弾予告電話をかけた母親逮捕。
6(木)●自民党、「企業献金全廃は違憲」と政治資金規正三木試案に反対(首相は法制化断念)。
7(金)●公取委、化粧品販売会社ホリデイ・マジックを強制調査。初のマルチ商法摘発。
8(土)●ソウルで統一協会が集団結婚式。日本人一五九八人含む二〇ヵ国三六〇〇人が出席。
●宮下順子主演の映画「実録・阿部定」封切。
9(日)●「ママさんコーラス」の全日本合唱祭'75開催。
10(月)●東京都、機構縮小・手当削減を都労連に提示。
11(火)●英保守党党首にM・サッチャー選出。
12(水)●経団連、企業分割など独禁法強化反対を表明。
13(木)●品川信用組合の前支店長、一二億六〇〇〇万円の暴力団不正融資で逮捕。
14(金)●コカ・コーラ出荷量、日本で初の減少と新聞に。
15(土)●韓国大統領赦免権で金芝河ら政治犯釈放(17日、釈放された早川嘉春・太刀川正樹帰国)。
16(日)●四日市市の大協石油のタンクが炎上(同石油化学コンビナートでこの年事故が一三件)。
17(月)●地婦連、昭和四三年以来の一〇〇円化粧品「ちふれ」を一五〇円に値上げと発表。
18(火)●財政危機の滋賀県、知事・管理職の給与削減。
19(水)●大阪で歯の苦情一一〇番開設(以後全国に広まる)。歯科医の差額徴収に苦情が殺到。
20(木)●元東大総長・加藤一郎、国連大学副学長に内定。
●全国酪農民総決起大会。乳価引き上げを要求。
21(金)●運輸省、韓国への渡航規制を解除。
22(土)●自動車排ガス五一年度規制基準発表。
23(日)●新宿の伊勢丹百貨店に爆破予告。二万人避難。
24(月)●京都府教委、五段階相対評価の転換を通達。
●歌舞伎の坂東流で内紛表面化。故三津五郎夫人が三津十郎を家元に指名し簑助派と対立。
25(火)●遷都を検討する新首都問題懇談会が初会合。
26(水)●東京高裁、男性より女性が一〇年早い「伊豆シャボテン公園」の定年制は無効と判決。
27(木)●住宅公団関東支社管内の第一回空き家抽選で、四六〇〇戸に過去最高の二五万人が応募。
28(金)●東アジア反日武装戦線、間組本社ビルを爆破。

南良和

◀**上野駅地下街は満員(3月)**オイル・ショック以後の不況は出稼ぎ労働者にとっても深刻だった。総理府が前月末、完全失業者が8年ぶりに100万人を突破と発表したばかり。宿泊代の節約のため夜をここですごした。

WWP

▲**サウジアラビアのファイサル国王暗殺(3月25日)**甥のムサエド王子が射殺。中東和平推進の盟主の死に欧米諸国はショック。しかし急進派の蜂起はなく、ハリド皇太子が王位を継承した。

WWP

▲**チャップリンに英王室が「ナイト」授与(3月4日)**女王臨席のもと、バッキンガム宮殿で授与式。86歳になった喜劇王は、以降「サー」と呼ばれることになった。写真は式後、オオナ夫人と。

日刊スポーツ

▶**大関貴ノ花、悲願の初優勝(3月23日)** 大阪府立体育館で行われていた大相撲春場所千秋楽優勝決定戦で横綱北の湖を寄り切り、初優勝を決めた。この瞬間、テレビ視聴率は50パーセントを超えた。

▼**「クイーン・エリザベスII世号」日本寄港(3月7日)** 92日間世界一周の旅の途上、5日の神戸港に続き、横浜港へ。横浜には4日間で52万人の見物客が押し寄せた。世界最大の英国豪華客船と雪化粧の富士山。

読売新聞社

共同通信社

◀**新幹線、東京—博多間開業(3月10日)**この日、岡山—博多間の山陽新幹線が開通し、6時間56分で両駅が結ばれることになった。写真は博多発東京行きの一番列車「ひかり100号」。

昭和50年3月

1(土)●選抜高校野球の入場行進歌に森昌子の「おかあさん」を採用と発表。
2(日)●国分寺市で「コミューンまつり」開催。
3(月)●日本軽金属と鐘紡、賃上げ凍結を労組に提案。
4(火)●C・チャップリン、「ナイト」の称号を受ける。
5(水)●世界一周途上の豪華客船「クイーン・エリザベスII世号」が神戸入港(7日横浜入港)。
6(木)●女子中高生補導が戦後最高と『非行少女白書』。
7(金)●前年は戦後初のマイナス成長と経企庁発表。
8(土)●自治省、地方自治体の給与水準を発表。大都市周辺では国に比べ三〇~四〇%高。
9(日)●自民党が大阪で会費六万円の「政経文化パーティー」開催。党費集めの新方式に。
10(月)●山陽新幹線の岡山—博多間が開業。
11(火)●富士通、コンピュータ業界初の海外進出で、スペインに情報処理の合弁会社設立と発表。
12(水)●厚生省、中国残留孤児の初公開調査を開始。
13(木)●ソウルで金芝河が拉致される(翌日再逮捕)。
14(金)●中核派の書記長・本多延嘉、革マル派に撲殺される(16日中核派、報復を宣言)。
15(土)●中央公害対策審、新幹線騒音基準の原案決定。
16(日)●日英ゴルフで個人・団体とも日本が優勝。
17(月)●社会党、米軍岩国基地で核・生物・化学兵器作戦実戦部隊司令部の写真を入手と発表。
18(火)●富士銀行、普通預金の利息下限金額を一〇〇〇円から一〇〇円に改正と決定。
19(水)●服飾の流行は画一時代去り多様化、と新聞に。
20(木)●政府主唱の食品安売り「フードウィーク」が十大都市、一二万四〇〇〇店舗参加で始まる。
21(金)●宮城まり子、近畿放送で初の二五時間テレビ番組「チャリティー・テレソン」に出演。
22(土)●身障者に自動車免許など警視庁が規制緩和。
23(日)●大相撲で大関貴ノ花(現・二子山親方)初優勝。
24(月)●ミツワ石鹼、会社整理申請し事実上の倒産。
25(火)●サウジアラビアのファイサル国王、暗殺。
26(水)●野尻湖で参加自由のナウマン象発掘作業開始。
27(木)●都心の小学校で児童確保に卒業生らが奔走、転校引きとめで越境通学増加と新聞に。
28(金)●国民政治協会発足。金権批判の国民協会改組。
29(土)●公団・公庫役員の八割天下りと『天下り白書』。
30(日)●週休二日制実施企業が四割突破と労働省調査。
31(月)●テレビの東京—大阪間の系列交換。TBS・毎日放送、NET(現テレビ朝日)・朝日放送。
●東北自動車道の郡山—白石間が開通。

日刊スポーツ

▲フォーク歌手4人が会社設立(4月11日)吉田拓郎、小室等、井上陽水、泉谷しげる(写真右から)がフォーライフレコードを発足、好きなレコードの製作をめざした。

▶神奈川に初の革新知事(4月13日)統一地方選挙で学者出身の長洲一二(写真)が当選。東京の美濃部亮吉、大阪の黒田了一とともに「革新メガロポリス」を形成。

読売新聞社

毎日新聞社

◀活躍するトンガ力士(4月)南太平洋にあるトンガ王国から、前年10月に朝日山部屋に入門。4人同時に角界入りしたためホームシックもなく稽古十分。初場所には椰子の山が序ノ口優勝をはたした。写真はチャンコを作る力士たち。

▼警視庁、内ゲバ取締り対策室設置(4月3日)激化していた革マル派対中核派の内ゲバは、3月、中核派・本多書記長が殺され、革マル派への報復宣言が出るにおよんで緊迫感が高まり、警視庁は非常事態を宣言していた。

共同通信社

毎日新聞社

▲ハンググライダー上陸(4月4日)新しいスポーツのひとつ、ハンググライダーの米国人による実技が東京の国立競技場で行われた。鳥人世界一を決める世界大会は翌年に行われている。

▼カンボジアのプノンペン解放(4月17日)4月に入ってロン・ノル大統領ら政府軍が続々脱出、米軍も引揚げたため、キュー・サムファン司令官ら解放勢力は、抵抗を受けずに占領した。

馬渕直城

昭和50年4月

1(火)●初めて市が村の数を上回ると自治省発表。
2(水)●熊本中央郵便局で県議選投票依頼文に五〇〇円札同封の封書二万通を発見。
3(木)●警察庁に国際刑事課が発足。
4(金)●ルーマニア大統領チャウシェスク来日。
5(土)●双子の歌手ザ・ピーナッツ引退(6月4日、伊藤エミと沢田研二が結婚を発表)。
●「欽ちゃんのドンとやってみよう」の放映開始。
6(日)●皇居周辺で毎週日曜に自転車専用道路が開放。
7(月)●小野田寛郎、ブラジルに移住。
8(火)●韓国の人民革命党事件で八人の死刑確定。
9(水)●高校生のマルチ商法加入増に警察庁通達。
10(木)●山上たつひこの漫画「がきデカ」第一巻発売。
11(金)●小室等・吉田拓郎・井上陽水・泉谷しげる、フォーライフレコードの設立を発表。
12(土)●東大、七年ぶりの入学式を武道館で行う。
13(日)●第八回統一地方選挙。東京で美濃部三選、大阪で黒田再選、神奈川も革新の長洲一二当選。
●矢沢永吉らの「キャロル」が解散コンサート。
14(月)●名古屋地裁、部屋ごとに駐車庫がつくモーテルは社会秩序損なうと営業停止処分を支持。
15(火)●閣議、全閣僚の給与一〇%削減を決定。
16(水)●日立市の工場でトルエンが住宅街に大量流出。
17(木)●カンボジアでロン・ノル政権崩壊。
●タンカー「土佐丸」、マラッカ海峡でリベリア船籍タンカーと衝突、船体が割れ沈没。
18(金)●海上都市アクアポリスが広島出航。海洋博へ。
19(土)●劇団天井桟敷、三〇時間市街劇「ノック」上演。
20(日)●東京の進学塾「四谷大塚進学教室」の入塾試験を一万六〇〇〇人の小学生が受験。
21(月)●大分県庄内町でM六・四の直下型地震。
22(火)●ゼンセン同盟、賃上げ凍結の鐘紡労組を除名。
23(水)●運輸省、前年の船舶受注は前年比二八%減と。
24(木)●公衆浴場で長髪男性からの洗髪料徴収認める。
25(金)●米軍千歳基地を六月に閉鎖と北海道に通知。
26(土)●東京地検、男性ヌード掲載の「女性自身」誌を起訴猶予、「薔薇族」誌は起訴。
●つかこうへい「ストリッパー物語」上演。
27(日)●日本初の外国人監督、広島のJ・ルーツが主審に暴行退場し、退団(後任、古葉竹識)。
28(月)●住宅金融公庫に申請殺到、初日で締め切り。
29(火)●「母乳運動」広がり粉ミルク減産と新聞に。
30(水)●南ベトナム解放民族戦線、サイゴンに入城。大統領は無条件降伏し、ベトナム戦争終結。

読売新聞社
朝日新聞社

◀エベレストに女性初登頂(5月16日)4日には13人が負傷する事故もあったが、日本女子登山隊(久野英子隊長ら15人)の田部井淳子がシェルパとともに、ついに世界最高峰の頂点に立った。

▼稲葉修法相、改憲論(5月7日)3日に自主憲法制定会議に出席、この日の参院決算委でも「現行憲法は欠陥が多い」と述べ野党の抗議で審議中断。21日発言取り消し、三木首相が「改憲せず」と表明。

証言・あの日この日
宮 柊二(62)

3月11日(火)〈読売新聞には、北極を一人で渡っている植村直己さんが、グリーンランド北部のツーレに辿り着いたと報じられてあった。北極の闇の中で磁石が役に立たなかったことや、犬に逃げ出されたことや、そのために自分で橇を押さなければならず汗が出ると、その汗が氷点下30度の寒さの中ではたちまち顔に氷りついたということなど、記事は短いが読んでゆくと胸の躍るおもいがするのであった〉(宮柊二『忘瓦亭日録』)

宮柊二はまた、同じ日記の7月27日の項で、植村がこの年、優れた詩人に与えられる「歴程賞」(第13回)を受賞したことを伝えている。「毎日新聞」に載った選者・草野心平の授賞理由の言葉は、「植村君を未知の世界へ駆るもの、あれは激しいポエジーなんだ」というものだったという。

(坪内祐三)

▼交通ゼネスト(5月9日)大幅な賃上げ要求を掲げて前日からストに入った国労・動労に続き、私鉄総連も第2次ストに突入。翌日午後まで交通網が全面麻痺。写真は東京の品川車両基地に停車する新幹線。

毎日新聞社

▲エリザベス女王、来日(5月7日)皇居豊明殿で開かれた天皇主催の晩餐会に出席し、9日には夫君のエジンバラ公とともに都内をパレード。英国元首の日本訪問は初めてだった。
読売新聞社

毎日新聞社

▼連続企業爆破犯を逮捕(5月19日)「東アジア反日武装戦線」を名乗る8人。彼らは次々爆弾事件を起こしながら、平凡な市民として身をひそめていた。写真は床下で爆弾を作っていたアパート。

読売新聞社

昭和50年5月

1(木)●世界初の海上空港、長崎空港が開港。
●プロ野球初の月間MVPに阪神の田淵幸一。
2(金)●坂東玉三郎、新派の舞台(「稽古扇」)に初出演。
●初の無人スーパー、オーケー国分寺店が開店。
3(土)●稲葉修法相、自主憲法制定国民会議に出席。
4(日)●元兵庫県警警察官、宝塚市の生協で強盗未遂。派出所から盗んだ拳銃で警備員を銃撃。
5(月)●米キッシンジャー国務長官、NBCテレビで米国のベトナム政策は誤りだったと語る。
6(火)●沖縄県伊江島での米兵発砲事件(49年7月)で日本政府は裁判権放棄を決定。
7(水)●エリザベス英女王夫妻が初めて来日。
8(木)●国労・動労、七二時間スト突入(9日私鉄も)。
9(金)●上場企業の約三割が減配など戦後最悪の決算。
10(土)●厚木市の高校で授業中に男子生徒が三人刺傷。
11(日)●都内の日曜歩行者天国、雨でも実施と決定。
12(月)●中沢啓治『はだしのゲン』(汐文社)刊行。
13(火)●失業者一一二万人で前年比二五%増と総理府。
14(水)●サッカリン規制を緩和。主婦連など抗議声明。
15(木)●五生協合併し「かながわ生活協同組合」発足。
16(金)●田部井淳子、女性で世界初のエベレスト登頂。
17(土)●小田実ら三三人が金芝河釈放要求のハンスト。
18(日)●従業員に生命保険をかけ殺害した高知県の運送業経営者らが逮捕される。
19(月)●東アジア反日武装戦線の八人、連続企業爆破容疑で逮捕。斎藤和、取調室で自殺。
20(火)●公害防止投資は二六兆円と『環境白書』予測。
21(水)●月刊「PLAYBOY日本版」(集英社)創刊。
●播磨灘で赤潮が異常発生、養殖ハマチ全滅。
22(木)●長崎県が拒否し対馬の「むつ」母港化を断念。
23(金)●トルエン遊びが流行、警視庁は四ヵ月で三〇〇〇人を補導と新聞に。
24(土)●放送作家組合・新聞労連など、第一回国語と差別を考えるシンポジウムを開催。
25(日)●日本ダービーの売り上げが一一九億円の新記録。カブラヤオーが皐月賞に続き二冠に輝く。
26(月)●甲府市で自動販売機での酒類深夜販売を禁止。
27(火)●兵庫県家島で水不足解消のための日量一〇〇〇トンの海水淡水化装置が完成。
28(水)●科技庁、ソーラーハウスの実験住宅を公開。
29(木)●新潟県の開拓地で野菜への転作では生活できないとして水田耕作再開、と新聞に。
30(金)●西宮市役所で全国初の管理職組合結成。
31(土)●国鉄、春闘処分者九〇八九人を労組に通告。

▲国際婦人年世界会議開幕（6月19日）国連が男女平等と女性進出促進のために定めたこの年のハイライト。メキシコで138ヵ国2000人の参加者が議論、その中で「ミズ」の呼称が公認された。

▲スエズ運河、8年ぶり再開（6月5日）第3次中東戦争でイスラエルがシナイ半島を占領して以来。中東緊張緩和、エジプト経済再建への大きな一歩だった。

▲ベトナム難民、日本上陸（6月27日）サイゴン陥落以来、初めて50人という多人数が横浜港に到着。日本は受け入れ拒否、亡命国決定までの一時入国を認めた。

時事通信社

◀銀座に公設銭湯、オープン（6月10日）相次ぐ廃業で風呂がなくなり、都設民営方式の「銀座湯」が1丁目にできた。美濃部都知事（右）も開所式に。

共同通信社

▼三木首相襲われる（6月16日）佐藤栄作元首相の国民葬に出席するところを、東京の日本武道館玄関前で大日本愛国党員に殴られて転倒。犯人は首相への自殺勧告書を所持。

時事通信社

▼31年ぶりの日本（6月10日）元満州開拓青年義勇隊員が一時帰国し、故郷・広島市で長男とともに実姉に再会。帰国できないまま中国に定住していた。

中国新聞社

昭和50年6月

1（日）●大分県で第一回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会開催。一八ヵ国九七四人が参加。
2（月）●仏リヨン市で売春婦一〇〇人が警察の取締りに抗議し教会占拠。各地に波及。
3（火）●大阪地裁、矢田教育差別文書事件（44年）で部落解放運動の糾弾は正当と無罪判決。
4（水）●三菱重工、一万人の一時帰休を労組に提案。
5（木）●中東戦争で閉鎖のスエズ運河が八年ぶり再開。
6（金）●参院決算委、田中金脈問題で政府に警告決議。
7（土）●阪東妻三郎二三回忌記念の阪妻映画祭が開幕。
8（日）●鎌倉市で暴走族六〇〇人が乱闘。六七人検挙。
9（月）●中国とフィリピンが国交樹立（7月1日中国とタイも。「覇権主義反対」の共同声明）。
10（火）●「紅茶きのこ」が爆発的ブーム、効果は疑問と新聞に（23日新潟で販売業者摘発）。
11（水）●警察庁、暴走族に免許停止三〇日加算など厳罰でのぞむと決定（14日全国一斉取締り）。
12（木）●米政府合同調査委員会、フロンガスの禁止を米政府に勧告。
13（金）●売り上げ伸びが四一年以来最低と百貨店協会。●国際婦人年で衆院社労委がトルコ風呂を審議。
14（土）●根室沖でM七の地震。国後島の爺爺岳噴煙。
15（日）●光化学スモッグ被害がこの年六六六一人に。
16（月）●佐藤栄作の国民葬で右翼が三木首相に暴行。
17（火）●衆院本会議、婦人の地位向上決議案を可決。
18（水）●映画「潮騒」で山口百恵をヌードにしたのは許せないと東宝への放火をはかった青年逮捕。
19（木）●メキシコで国際婦人年世界会議、開幕。
20（金）●米国防長官、韓国への核兵器配備を認める。
21（土）●夕食材料を出前する新商売が人気と新聞に。
22（日）●九州に集中豪雨。垂水市で山崩れ、七人死亡。
23（月）●国鉄、浜松市と富士市の三六戸に新幹線公害で初めて移転補償費六億一〇〇〇万円提示。
24（火）●加藤登紀子の別荘で革マルが革労協一人殺害。
25（水）●釜ケ崎共闘の活動家、皇太子の沖縄訪問に抗議し米軍嘉手納基地前で焼身自殺。
26（木）●海外勤務者の子女教育調査で、高校生の五割が日本に残留、帰国者の三割が特別学習希望。
27（金）●ベトナム難民五〇人が横浜へ。初の大量来日。
28（土）●「就職情報」（日本リクルートセンター）創刊。●米映画「タワーリング・インフェルノ」封切。
29（日）●大腿四頭筋短縮症の子供を守る会、医師・国・製薬会社への損害賠償提訴を決定。
30（月）●自民・民社議員一八〇人が日韓議員連盟結成。

20世紀博物館
ビール博物館
一世紀を経た建造物だからこそ"ビール前史"を保存できる
北海道・札幌市

桑原茂夫

▲煉瓦造りの歴史的な建物で、"開拓使麦酒記念館"でもある「ビール博物館」。

生ビールの喉ごしの爽やかさは、ビール党にはこたえられない。一九七〇年代なかばは、そんな爽快感を追求したビールが、競って発売された時でもあった。

"生"が瓶などに詰められて流通するようになったのはたしかに画期的な出来事だったが、話としては、それよりはるか以前に、初めて国内での生産体制を整え、瓶に詰めたビールを広く流通させていたビール黎明期の昔話の方が、迫力があって面白い。

一九世紀後半の微生物学の進歩や、低温殺菌法などの開発を経て、今世紀に入ってから、やっとビールは広く流通する飲み物になり、どこでも味わえるようになったのだが、そんな時代の情緒まで味わえるのが、札幌市にあるサッポロビールの「ビール博物館」だ。

煉瓦造りのどっしりとした建物で、背後には、石を積み上げたようなこれも重厚感のある煙突が見える。明治二三年（一八九〇）に製糖工場として建てられ、明治三六年（一九〇三）に精麦工場に改修された建物である。つまりすでに一世紀を経た歴史的な建造物が、一五〇〇平方メートルの展示スペースを持つ博物館になっているのである。

▲明治・大正時代のポスター。まだ女性の肌は見せていない。

博物館に入る前に"ポスターのトンネル"を通ることになるが、ここでは、明治・大正・昭和と時代とともに息づいていたポスターが醸し出す、妙にエロチックな雰囲気に包まれることになる。副館長の平野晃一氏が語ったところによると「ビールは今のように普通に飲めるものではありませんでした。高価な飲み物だったのですね」。ポスターにも贅沢さや享楽的な要素が求められていたというわけである。

▲かつて流通していたビール瓶の数々。上段にはなんと1升入りのビール瓶が並んでいる。

ところで北海道における国産ビールの製造は、明治九年（一八七六）の開拓使麦酒醸造所の開業をもって始まるが、この時、主任技師として活躍したのが中川清兵衛。ドイツのチボリという所で修業をして、マイスターの資格を得た本格派ビール職人である。博物館にはその修了証書があって、日本ビール前史の意気ごみをリアルに感じることができる。

また、北海道にビール醸造所を設けるべきだとする、村橋久成という人の稟議書や、日本で初めてのビール製造会社「サッポロ麦酒会社」の設立趣意書にサインした、渋沢栄一や浅野総一郎ら財界人の筆跡からは、ビール製造への意欲がなまなましく感じられて刺激的だ。さらに、かつて流通していたビール瓶や、ビヤホールの看板、年代物のジョッキ等々からは、ビールを飲みながらのにぎやかなざわめきが聞こえてくるようだ。

実物や生の資料が持つ質感は、何物にも代えがたい。前出の平野氏は「呼吸できる建物であれば生きた保存ができるのではないでしょうか」とも語っている。煉瓦造りであるということには、そういう意味もあったのだ。いかにもビールを生き物として考えるビール会社の博物館なのであった。

●ビール博物館
札幌市東区北七条東九丁目サッポロビール札幌工場内
☎〇一一―七三一―四三六八
JR札幌駅よりバス一〇分
開館（入館）時間＝六～八月は八時四〇分～一六時四〇分、ほかの月は九時～一五時四〇分
休館日＝一二月二九日～一月五日
入館料＝無料、一〇人以上の場合要予約

▲早くから外国へも輸出されていたビール。いろいろなラベルが、往時のにぎやかさを感じさせる。

ベストセラー

同時進行ノンフィクションで有吉佐和子『複合汚染』大反響！

有吉佐和子が「朝日新聞」に連載した『複合汚染』が、連載中から話題騒然、単行本として四月に上巻、六月に下巻が刊行されるや、たちまちベストセラー上位に名をつらねた。テーマが読者の健康をおびやかす〝複合汚染〟で、舞台は同時代の日本列島。そして、読者の日常生活と同時進行で進められるノンフィクションだっただけに、反響は大きかった。

〝複合汚染〟というのは、農薬や食品添加物、合成洗剤、排気ガスなどの毒性物質が、体内で相乗作用を起こすことをさす専門用語である。しかし、科学的に〝複合汚染〟の実態を明らかにするには半世紀かかるので、「小説書きとして状況証拠だけで書こうと」（上巻後書き）したもの。これを非難する声に対しては「『花鳥風月』が危機にさらされている時、一人の小説書きがこういう仕事をしたのがいけないという理由など、あるでしょうか」と、その意志を貫いた。

またこの年、司馬遼太郎の『播磨灘物語』（全三巻）もよく読まれた。豊臣秀吉のブレーンだった黒田官兵衛の生涯を描き出した作品。「官兵衛はただ、秀吉という巨大な画布を用いて自分の絵を描く画工の位置にあまんじていたし、描くことだけが好きだという官兵衛の姿勢が、秀吉を安心させ、信じさせた」が、その優れた才能を、秀吉がおそれる面もあったようだ。こうした微妙な関係が、サラリーマン社会に通じるところがあったのかもしれない。合わせて百万部を超えるベストセラーになった。

なお、パルコ出版から若者向けのミニマガジン「ビックリハウス」が創刊されたが、新しい文化の創出をめざす流通業界からのメディアとして注目された。

●昭和50年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「播磨灘物語(上・中・下)」(司馬遼太郎／講談社)
2位	「複合汚染(上・下)」(有吉佐和子／新潮社)
3位	「欽ドンいってみようやってみよう(I・II)」(萩本欽一／集英社)
4位	「眼がどんどんよくなる」(H・ペパード／青春出版社)
5位	「崩れゆく日本をどう救うか」(松下幸之助／PHP研究所)
6位	「親の顔が見たい(正・続)」(川上源太郎／ごま書房)
7位	「ブラック・ホール」(J・テイラー／講談社)
8位	「謎のバミューダ海域」(C・バーリッツ／徳間書店)
9位	「元禄太平記(前・後)」(南條範夫／日本放送出版協会)
10位	「梅干と日本刀(正・続)」(樋口清之／祥伝社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『播磨灘物語』（上中下各850円）

▲『複合汚染』（上750円、下700円）

日本近代文学館提供

▲「ビックリハウス」（150円）

スターと名場面

パワフルな巨匠・溝口健二像 新藤兼人「ある映画監督の生涯」

新藤兼人が撮った「ある映画監督の生涯・溝口健二の記録」が評判になった。巨匠・溝口健二の軌跡を追うことで、衰退の気配を見せる映画界に〝活〟を入れるようなドキュメンタリーだった。

田中絹代、依田義賢（同時代の脚本家）、伊藤大輔（時代劇の巨匠）、中野英治（無声映画時代からのスター）、浦辺粂子、永田雅一、入江たか子などそうそうたるメンバーの、生きた証言から浮かび上がる溝口健二像は、今でも十分パワフルで魅力的だ。

一方、政治の表裏を真っ向から描いた山本薩夫監督の「金環蝕」は、現実の政治家たちをモデルにした、限りなくドキュメンタリーに近いことを思わせる映画だった。

また、五木寛之原作の『青春の門』が浦山桐郎監督の手で映画化された。大正・昭和の激動期に生きた、北九州の炭鉱の人々の姿が、主人公の少年から青年への成長とともにリアルに描かれた。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「新幹線大爆破」（高倉健）「男はつらいよ・寅次郎相合い傘」（渥美清、浅丘ルリ子）「愛の嵐」（シャーロット・ランプリング）「ザッツ・エンタテインメント」（フレッド・アステア）「ジョーズ」（ロイ・シャイダー）

近代映画協会提供

▲「ある映画監督の生涯・溝口健二の記録」で監督との微妙な関係を語る田中絹代。

大映提供

▶「金環蝕」で、政・財界の裏を知る金融業者を演じる宇野重吉(右)と、巧みにカネを集める幹事長役の仲代達矢(左)。

東宝提供

▲「青春の門」で、主役の少年を演じた田中健(左)とその母親役の吉永小百合(中)。写真右の小林旭は彼らの後見人の役。

モノ語り'75

使い捨てライター「チルチルミチル」に「チップスター」「ピッカリコニカ」

▲どこで撮ってもきれいな写真　35ミリカメラでは世界で初めてという、ストロボ内蔵の自動シャッターカメラ「ピッカリコニカ」が発売され、室内でも簡単に撮れると大好評。ストロボはポップアップ式。ボディは主としてグラスファイバー入り硬質プラスチック製で大幅コストダウン。2万9800円という価格やインパクトのあるテレビコマーシャルが功を奏して、大衆カメラの新時代到来を告げるヒット商品となった。

▲ごはんにもインスタントの登場　カップ麺などのインスタント食品で知られる日清食品が、インスタントごはんの「カップライス赤飯」を1個200円で発売して話題を呼んだ。湯をかけると炊きたてのごはんができるとあって試食会は大成功。初出荷も順調だったが、後の売れ行きは今ひとつだった。インスタント食品にもやはり限界があり、ごはんはそれぞれの家庭の味が好まれると発売元は分析している。

▶使い捨てライターが爆発的ヒット　透明なプラスチック容器の中に液化ガスが見えるライター「チルチルミチル」が1個100円で売り出され、生産が追いつかないヒット商品となった。製造したのは東海精器(現・東海)で、それまでにも開発・販売を試みてきたが、品質上のトラブルや、原材料の高騰などで実現できなかったもの。東京パイプの協力を得て、安定した品質とコストダウンに成功、年間6000万個販売という定番商品が誕生した。

▲明太子も東京で食べる時代に　東京―博多間が新幹線で結ばれるなど、高速交通網が発達するとともに、流通にも大きな変化が起きてきた。食品会社のふくやが商品化した博多名物「からしめんたいこ」が、東京などでもさかんに食べられるようになったのも、この頃。〝めんたい〟はスケトウダラのハングルが日本語化した言葉で、タラの子のタラコを素材にしたものだから〝めんたいこ〟と称した。200グラム入り700円など。

◀日本で初めての成型ポテトチップス
アメリカで人気を博していた成型ポテトチップスを日本でも販売しようと、その試作に取り組んでいたヤマザキナビスコは、この年独自の量産機械の開発に成功、「チップスター」と名づけ、翌年早々から1箱200円で発売に踏み切った。円筒形のパッケージも斬新だったが、形のそろったポテトチップスは珍しく、たちまち人気商品になり、以降現在に続くロングセラー商品となった。

▲クルマの中でステレオを楽しむ　自動車の普及とオーディオ装置の高度化というふたつの流れが合流して、パイオニアの「コンポカーステレオ」が生まれた。カーステレオを本格的なものにするためには、従来の3倍の容積が必要だったが、アンプとチューナー、カセットデッキを分割して車中に搭載するというアイディアで、これを可能にした。2万4900円。

▼テレビゲームが家庭の中に入ってきた　この年エポック社は、テレビに接続して遊べるテレビゲーム機「テレビテニス」や「ブロックくずし」を発売した。ゲームセンターなどで次第に人気を得てきたテレビゲームが、家庭のテレビを使って楽しめるようになったのである。ハードとソフトが一体になったゲーム機で、1台1万9500円と、ひとつのソフトの価格としては高価だったが、家庭のテレビで遊べるという点では画期的なものだった。

人物クローズアップ

梶山季之（四五）
ライフワーク取材中に香港で急死 月産一五〇〇枚の〝トップ屋〟作家

◀昭和45年12月、銀座のバー「魔里」で野坂昭如（左端）、川上宗薫と。いずれも、当代きっての流行作家たち。この前年、梶山は文壇長者番付1位となった。

藤森秀郎

昭和五〇年五月一二日、「朝日新聞」朝刊は「梶山季之氏急死　取材旅行で香港滞在中」の記事を報じた。梶山が長年あたためてきた日韓関係とハワイやブラジルなど世界各国に散らばる日系二世・三世の問題を描く社会派小説『積乱雲』の取材中の死で、享年四五歳。四〇〇字詰め原稿用紙で月産一五〇〇枚とも言われた売れっ子作家のあっけない死だった。

「季之は自分が韓国生まれ、母がハワイ生まれの二世であるため、今度の仕事がライフワークだと張り切っていました。四月にはハワイを訪れ、さらに作品に登場する香港に取材に来た矢先でした」

と、梶山の客死直後、美那江夫人は、同記事に談話を寄せている。

死因は持病の結核ではなく、肝硬変による食道静脈瘤破裂。結核という〝爆弾〟を抱えながら無理を重ねたあげくの過労死とも言うべきものだった。

梶山は昭和五年、朝鮮半島のソウル（京城）生まれ。京城中学四年生の時に終戦を迎えると、両親の郷里・広島へと引揚げ、三年後広島高等師範学校（現・広島大学）へ進学するが、持病の結核が悪化。退屈な療養生活に耐えられず、恋人の小林美那江とともに駆け落ち同然で上京した。上京後、三浦朱門らの「新思潮」へ参加する一方で、雑誌の〝トップ屋〟と呼ばれる取材記者になる。

▶昭和五〇年の正月、自宅で家族とともに。梶山は頼まれるといやと言えない人柄と面倒見のよさから、多くの人に慕われた。「週刊現代」提供

大宅壮一文庫提供

月刊 うわさ 噂 梶山季之 責任編集 創刊号 8

▲46年に梶山が創刊した月刊誌「噂」。

この時期の経験を生かして書かれたのが、出世作『黒の試走車』（昭和三七年）である。「産業スパイ」という言葉を流行語にしたこの一作で、一躍大衆小説家として不動の地位を築くや、『赤いダイヤ』『夢の超特急』などの企業小説や、直木賞候補にノミネートされた『李朝残影』のような一連の社会派小説、さらにポルノと評される小説まで、すさまじい勢いで書きまくった。その性描写のきわどさに警察の摘発を受けたこともある。

数々の作品に共通する、どろどろした欲望が渦巻く人間社会の暗部をかき分ける梶山の独特の目線。それは、日本統治下の朝鮮半島で生まれたことに始まる波瀾の半生が身につけさせたものだろう。

梶山は、その自伝と言われる『わが鎮魂歌』の中で、無謀な上京とその後の苦労を振り返って、「青春とは無茶なものだ。法律に触れない限り、冒険をした方がいい。たとえ失敗しても、物書きの場合には、まるまる損失にはならないんだから……」と主人公に言わせている。

いくつになっても駄々っ子なところがあったと言われる梶山にとって、短かった一生のすべてが青春だったのかもしれない。

その梶山とともに駆け抜けた半生を、美那江夫人はこう振り返る。

「家出して上京する時に、せめて五〇歳までは生きて頂戴と頼んだものでしたが……。没後二十三回忌にあたる今年（平成九年）、季之が集めた資料や新たな資料をもとに、さまざまな方々に参加いただき『積乱雲』が刊行されることになりました。季之の思いを形にすることができ、私もひとまず肩の荷がおりる思いです」

決定的瞬間

「聖戦」を叫ぶ三五万の人波が砂漠の国境を越えた！ モロッコ民衆のサハラ大行進

「アル・ジハード（聖戦）」と叫びながら、国旗を振り、水筒と毛布を肩にしたおびただしい人々がモロッコの西南端、西サハラ（スペイン領サハラ）の国境に集結していた。その数三五万人。

一九七五年一〇月一六日。モロッコのハッサン国王は西サハラの領有権を全世界に示すねらいで「三五万人による平和的越境行進」を発表。国際司法裁判所が同日、西サハラの民族自決権を認める判断をしたことに対する反撃でもあった。

しかしこの大行進の企画の裏には、もうひとつの政治的意図が隠されていた。モロッコ最大の輸出産品であるリン鉱石の価格低迷による国際収支の悪化、農産物の不作、物価の上昇、反ハッサン勢力によるたび重なるクーデター未遂。こうした国内の政治的不安に対して、一九五六年にモロッコが独立して以来、悲願であった西サハラ領有を訴えることによって、国民を団結させ、国王の権威を回復しようという意図も含まれていたのだ。

そして、武器を持たない三五万人の人々がスペイン駐留軍の銃口に向かって歩くという、砂漠の大スペクタクルは国民に熱狂的に迎えられた。

一一月五日午後六時五〇分にハッサン国王はテレビ・ラジオを通じて大行進出発を告げる。国境近くに集結した三五万人は七〇〇〇人ずつ、五〇のグループに分けられてトラックで国境まで運ばれ、翌日午前一〇時三〇分に第一陣が歩いて国境を越えた。

この行進を取材した日本人の記者は「大地が動くようだ、というのはこのことをいうのか。大サハラの砂の上を、人、人、人の大波が一つの方向に打ち寄せる」（『朝日新聞』一一月七日）と興奮気味に報告している。

しかし、この大行進を西サハラ（人口七万人）の住民の側から眺めると、モロッコの横暴として映る。スペインの植民地支配の終焉（しゅうえん）は歓迎するが、だからといって自国がモロッコや、もうひとつの隣国であるモーリタニアに領有されるのは反対だという思いがあるからだ。

サハラ大行進は領内一二キロの地点にまで進み、一一月九日に中止された。そして一一月一四日、スペインはモロッコ、モーリタニアの西サハラ分割領有を認めるマドリッド協定に調印した。まさにハッサン国王の大きな賭は成功したのである。一方、翌年二月二七日には西サハラの独立を宣言してポリサリオ戦線が誕生。アルジェリアに支援されたポリサリオ戦線の戦いは今日まで続いている。

この事件から一〇年後、一九八五年に西サハラを取材したカメラマンの野町和嘉（かずよし）氏は「西サハラへは車で簡単に入れた。ポリサリオ戦線の戦いもモロッコの実質支配という既成事実に埋没しているように見えた」と言う。

この地域一帯をマグレブ（日没の地）という。真の静かで平和な日没が見られるためにはまだ時間がかかるようだ。

◀西サハラとの国境近くに集結したモロッコの民衆。途方もない人の波、強風にはためく赤い国旗に、大地を揺さぶるコーランの祈りがまじり合う。

テリー・フィンチャー／ユニフォト・プレス（2点とも）

▲越境し、大サハラを行進する人々。モーゼの「出エジプト記」を上回る規模、とさえ言われた。

美の出会い

「今、こうしている間にも」向井潤吉を駆り立てた失われゆく民家への愛惜

◀「北国街道白雨」（新潟県西蒲原郡巻町稲島）。昭和50年。油彩、50.3×60.8センチ。夏の通り雨に濡れた寂寞とした家並み。この民家も今はもう存在しない。

この年、七四歳になる洋画家の向井潤吉は、民家を訪ねる旅を以前にも増して意欲的に続けていた。三月に京都、四月に長野を旅し、六月からは青森、秋田、福島と東北地方の旅に向かった。それから戻ると、休む暇もなく長野、滋賀、京都、福島、千葉、茨城などに出かけ、最後は京都への旅行で終わった。この年に描いた油彩画は二四点余り。そのほかに数多くのスケッチを残している。

前年の昭和四九年に、東京セントラル美術館で「画業六〇年記念向井潤吉環流展」が開かれ、初期作品をはじめ、滞欧時の作品、戦中・戦後の作品、民家の作品など計九〇点余りが展示された。続いてこの年五〇年の一月には、横浜高島屋で「向井潤吉民家展」が開かれ、昭和二六年から近作にいたるまでの民家の作品七四点が出品された。人の温もりを感じさせる向井の民家は、いずれも水気を含んだ空気の中で静かにたたずんでいる。この雰囲気が訪れる人々の郷愁を呼びさまし、日常の喧噪を忘れさせるのであろう。静かなブームを巻き起こした。

向井の旅には、静枝夫人や長女の美芽さんが同行することが多かった。向井は旅先でスケッチするだけでなく、かならず現場で油彩画を描いた。そのため荷物は一人で持ちきれないほどに膨らみ、家族が手伝うことになったのである。

「主人は名所旧跡には目もくれないのです。民家の残っているところは、バスの便もない不便な場所が多いでしょう。そのうえ、天気次第で移動しなければならないので、いつも駅前の汚れたような旅館に泊まっていました。主人はよく、俺は旅の絵描きだと言っていました」と、静枝夫人は向井と歩いた旅を回想する。

明治三四年、京都市に生まれた向井は、関西美術院で写実表現を徹底的に仕込まれた後、上京、二科展で初入選した。昭和二年から約三年余りパリに滞在。ルーブル美術館に通いアングル、ミレー、ルノアールなどの作品を模写し、自室に戻るとスーチンばりの作品制作に没頭していた。帰国後は、パリで鍛え抜かれた技術に裏づけられた力強い人物画や風景画を発表する。

向井が初めて民家を描いたのは、昭和二〇年。長女の美芽さんが学童疎開していた新潟県川口村を訪れた際、民家に魅せられてしまったのである。この時のことを向井は「悪女の深情けにあったようなもので、病みつきになった」と語っている。そればかりではない。戦後の日本は高度成長のもとに、各地で道路やダムの建設が進められ、都市が膨脹して、古くからあった農村地帯を侵食していった。向井は変貌する風景に接し、絶望的な気分になったが、未知の土地はまだ無限にあるはずだと信じ、飽くことなく旅に出かけていった。今、こうしている間にも、民家は次々に失われていく。二度と見ることはできないという切羽つまった気持ちが向井を突き動かしたのである。

こうして向井は、平成七年一一月一四日、九三歳で亡くなる寸前まで描き続け、民家だけでも生涯に二〇〇〇点におよぶ油彩作品を残している。「本当に真面目人間で、毎日朝八時半から午後三時まで、描いていました」と静枝夫人は語る。

亡くなる二年前の平成五年、向井は所蔵作品のうちの三百余点とともに、自宅兼アトリエとその敷地を世田谷区に寄贈。世田谷区は同年七月、世田谷美術館分館・向井潤吉アトリエ館として開館した。ここには、現在六〇〇点余りが収蔵されている。緑に囲まれた二階建ての日本家屋に展示された向井の「民家」作品は、層みずみずしい生気を放っている。

向井潤吉アトリエ館提供（3点とも）

▲「山居立春」（神奈川県足柄上郡山北町世附）。昭和50年。油彩、91.1×116.8センチ。この村は、今はダムの湖底に沈んでいる。

◀制作中の向井潤吉。昭和五〇年頃。

小松川

今も鉱滓が掘り出される “産廃”六価クロム禍の跡

山本徹美

▼昭和50年8月、六価クロム汚染で都営平井団地のグラウンドも立ち入り禁止に。 共同通信社

▲旧日本化学工業小松川工場跡地にできた「風の広場」。 但馬一憲

北区
荒川区
葛飾区
豊島区
総武線
文京区
台東区
墨田区
江戸川区
新宿区
東京駅
千代田区
中央区
江東区
旧日本化学工業小松川工場
渋谷区
港区
荒川
千葉県
東京湾
目黒区

昭和五〇年七月一六日、東京都が日化工（日本化学工業）から買収した江戸川区堀江地区（現・南葛西）などから、六価クロムが検出、汚染の事実が判明した。

六価クロムは皮膚・粘膜に炎症、潰瘍を発生させ、呼吸器や消化器の癌を誘発する有害物質。日化工ではクロム鉱石から重クロム酸ソーダを製造、残りかすである鉱滓を土中に投棄していた。その鉱滓が地中の水分と化合して六価クロムを発生させていたのである。

日化工は昭和一四年頃からクロム鉱滓を投棄。その総量は約五七万トンにのぼり、そのうち確認できたのは三三万トン、都内や千葉など一七二ヵ所であった。

都は翌月一一日、汚染土壌の無害化対策費用を日化工に請求するが、日化工側は「鉱滓は人体無害」と主張、応じないため一二月、東京地裁に損害賠償請求で提訴する。一方、日化工の元従業員側は「日本化学の六価クロム禍被害者の会」を結成。まず肺癌などで亡くなった三五人の遺族が東京地裁に提訴。同会とほかに日本消費者連盟など一四団体が都にクロム公害による被害対策を要請、美濃部亮吉都知事はこれを受け、「住民参加による日本化学工業クロム公害対策会議」を発足させた。

産業廃棄物汚染という新種の公害に対して、行政と住民が共闘態勢をとったのはわが国初の試みであった。

日化工は五四年三月、都と協定。鉱滓とその汚染土の恒久処理を約束。続いて五六年九月二八日、クロム訴訟に原告勝訴の判決。地裁は日化工に約一〇億五〇〇〇万円の損害賠償を命じ、被告は控訴せず確定した。

今も掘り出される鉱滓

鉱滓の投棄地だった「堀江団地」へ行ってみた。ある主婦は、六価クロムと聞いただけで眉をひそめた。「処理したので影響ない、と言うけど心配です。うちの子は喘息で、クロムではなく排気ガスのせいとの診断ですけど」。

都環境保全局水質保全部計画調整課土壌汚染対策係に問い合わせてみた。

「六価クロム汚染地域の水質と大気中の粉塵に関しては『対策会議』が中心となって、昭和五二年以降、継続して調査しています。水質は二ヵ月おき、粉塵は毎月調べていますが、六価クロムは検出されていません。健康被害調査も定期的に実施していますが、住民の被害例は今のところ報告されていません」

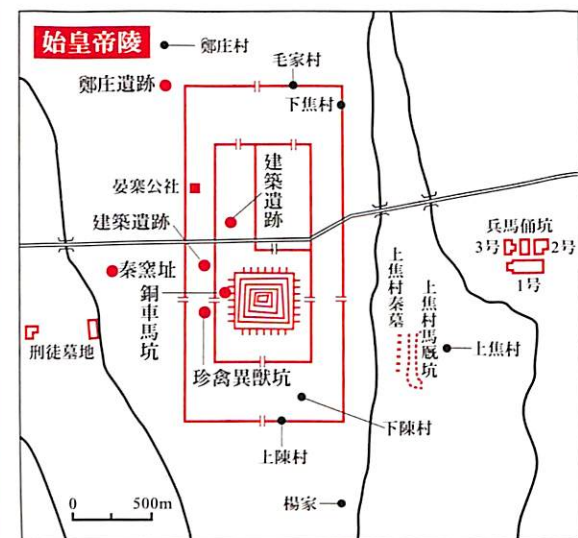
無害化処理したクロム鉱滓は、江戸川区小松川にある公園「風の広場」に埋めてあると聞き、訪ねてみた。広場は高さ一〇メートルほどの台地をなし、ジョギングコースが設置してあり、使用ルールを示す看板があった。が、この台地ができた由来についてはどこにも説明がなかった。

その北約一〇〇メートルの地点には、金網のフェンスで囲った鉱滓処理地がある。今も処理鉱滓が運ばれているのだ。そこも説明書きはなし。民家の下に埋まった未処理鉱滓は、数字はさだかではないが数万トンはあるという。

甦る古代史ロマン「兵馬俑坑」発見！

二二〇〇年の眠りからさめた秦・始皇帝の“地下軍団”

▲兵馬俑の発掘作業。平均身長180センチ、ほぼ等身大の像は、作られた当時は鮮やかな彩色がほどこされていたという。 新華社 中国通信社

一九七五年七月一〇日、中国国営の新華社通信が「秦・始皇帝の兵馬俑坑発見！」のニュースを打電した。古代中国文明のこの途方もなく壮大な遺跡は、一体何のために作られたのか。発見から二三年たった今も、その地下帝国の全容は解明されていない。

▶兵馬俑坑1号坑全景。東西230メートル、南北62メートルの空間が11列の細長いトンネルによって仕切られている。

新華社　中国通信社（3点とも）

七〇〇〇体の兵馬はすべてが実在した⁉

中国の古都・西安から三五キロほど東にある臨潼県西楊村で、農民の楊培彦（三六）がとうもろこし畑に灌漑用の井戸を掘っていた時のことだった。三、四メートル掘り進んだ鍬先で〝カチリ〟と音がして突然、頭のない人形が姿を現した。

新華社通信の打電から約一年前の一九七四年三月二九日、世界中の考古学者をあっと言わせる始皇帝の兵馬俑坑が発見された瞬間である。見つけた農夫はもちろん、報告を受けた人民公社や共産党の幹部にも等身大の人形の正体がわからず、のどかな農村はてんやわんやの大騒ぎになった。駆けつけた考古学者によってさっそく調査が開始されたが、出てくる、出てくる。地下四・五メートルから六・五メートルの地中からは、等身大で、驚くほど迫真的な陶製の兵士や馬が次々と発見された。

近くに秦の始皇帝の陵墓があることから陵の陪葬坑とわかったが、研究者のど肝を抜いたのはその規模である。東西二三〇メートル、南北六二メートルの長方形の地下空間に埋まっている兵馬俑（等身大の兵士や馬の像）は約六〇〇〇体で、戦車や青銅の武器はすべて本物。陣形は先頭に弓や弩（古代中国最強の引き金つき弓）を手にした先鋒隊の二〇四体を筆頭に、後方の左右には外側を向いた射手、中央には一一列の歩兵部隊、戦車を引く四頭の馬や「軍吏俑」と呼ばれる指揮官、御者もいる。

さらに、一九七六年には近くで兵馬俑坑二つが発見され、「二号坑」「三号坑」と名づけられた二つの坑からも跪いた射撃兵の「跪射俑」、騎兵が馬の手綱をとる「騎兵鞍馬俑」などが確認された。

「最初に発見された『一号坑』が主力の歩兵部隊、『二号坑』は強者ぞろいの精鋭部隊、『三号坑』が大将軍が腰をすえる総司令部と三つの坑には役割が決まっており、この地下軍団が二二〇〇年前に始皇帝が率いた軍の編成や兵術を再現しているのは明らかです。同時に世界中の学者を驚かせたのはその写実性ですよ。今までに発見された七〇〇〇体近い兵馬俑はひとつとして同じ容貌、表情のものがない。絶大な権力者の始皇帝だからこそ、類のない造形芸術を作り出せたのです」

始皇帝陵
郯庄村
毛家村
郯庄遺跡
下焦村
晏寨公社
建築遺跡
建築遺跡
秦窯址
銅車馬坑
刑徒墓地
珍禽異獣坑
上焦村秦墓
上焦村馬厩坑
上焦村
兵馬俑坑
3号
2号
1号
下陳村
上陳村
楊家
0　500m

と解説するのは、発掘現場を何度も訪れている京都造形芸術大学の田辺昭三教授だ。兵士俑は、服の柄からひげや結髪、靴の裏まで忠実に再現され、それぞれの出身地や民族がわかるほど精巧に作られていた。言いかえれば、「兵馬俑坑は実在した秦軍団をまるごとモデルにした可能性が高い」（田辺教授）のである。

不老不死を信じた始皇帝の〝地下帝国〟

この兵馬俑坑を作った始皇帝（紀元前二五九～前二一〇）は、紀元前二二一年に中国を初めて統一した人物である。孔子の活躍した春秋時代に続く戦国時代、強国がしのぎを削った戦乱の世を三九歳で制圧し、中央集権制を敷いて専制国家を創りあげた。法律や度量衡の統一、諸侯が独自に築いた障壁をつないで完成した万里の長城など、その後二〇〇〇年にわたって歴代王朝に受け継がれる体制を数多く手がけたが、一方で、知識人を生き埋めにし、書物を焼き捨てた「焚書坑儒」によって〝悪者〟として引き合いに出されることも多い。

こうした彼の支配欲は人間世界におさまらなかった。著名な歴史家・司馬遷の『史記』に記された、台風に行く手をはばまれ樹木すべてを伐って禿山にした逸話や、巨大な陵墓「始皇帝陵」、中国最大の木造建築になっていたはずの宮殿「阿房宮」をはじめとする大土木工事を好んだことからも、その権勢を自然界にまでおよぼそうとしていたことがうかがえる。

「兵馬俑坑は、死後の世界も征服したい始皇帝を護衛し続けるために作られたから、生前の陣立てそのままに、陵墓を守るように配置されたのです。人間を等身大の土人形にしたのは、彼らしい合理主義の現れです。〝永遠の帝国〟で兵士に死なれては困りますから」（田辺教授）

俑坑や始皇帝陵の周辺では、始皇帝専用の動物園や厩舎を再現した「珍禽異獣坑」「馬厩坑」も発見されている。こうした地下帝国の中で現在、最大のミステリーと言われているのが陵の真下にある可能性が高い「地下宮殿」だ。

「機械仕掛けの弩を作らせ、盗掘人が侵入したら矢を射かけるように工夫した。機械水銀で天下の河川と大海を表現し、機械を使って水銀をめぐらせた」――地下宮殿についての『史記』の記述が本当なら、始皇帝の遺体が眠る宮殿には自動的に矢が飛びだす機械や、水銀の海が仕掛けられていることになる。残念ながら、調査・保存に万全が期せるまでは中国政府に始皇帝陵を発掘する予定はないが、一九八一年には墳丘から高濃度の水銀が検出され、空想の産物だとされていた「地下宮殿」の存在が現実味をおびてきている。

「〝水銀の河〟を裏づける結果が判明しているんです。そうなると調査は命がけですね。侵入者に矢を射る〝機械仕掛けの弩〟があるわけですから」（田辺教授）

兵馬俑坑――それは、永遠の生にこだわった専制君主・始皇帝が作った〝地下帝国〟のほんの入り口にすぎない。

▶二号坑から出土した跪射俑。片膝をついた足の裏には、草履の底の模様まで克明に彫られている。

▲1980年、始皇帝陵の中心部近くの地下から発見された銅車馬。実物の2分の1のサイズで、青銅と貴金属を精妙に組み合わせている。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

沖縄タイムス

▼**人気のダウンタウン・ブギウギ・バンド(7月)**4月発売の「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」が大ヒットし、メンバーのユニホームであるつなぎ服もファッションになった。

▲**皇太子夫妻に火炎瓶(7月17日)**海洋博出席のため沖縄を訪れ、ひめゆりの塔前で火炎瓶を投げられたが無事だった。皇太子は「沖縄の傷痕を深く省みる」と談話を発表。

毎日新聞社

▲**内ゲバ激化(7月17日)**東京・新橋駅で、皇太子の訪沖阻止闘争参加後、羽田から帰る途中の中核派と革マル派が衝突した。写真は双方合わせて600人が乱闘した京浜東北線の電車内。

ユニフォト・プレス

▲**米「アポロ」宇宙船とソ連「ソユーズ19号」、ドッキングに成功(7月18日)**「アポロ」から「ソユーズ」に乗り移り、米ソの宇宙飛行士が史上初めて宇宙空間で握手。

毎日新聞社

▼**恵那山トンネル開通(8月23日)**長野・岐阜県境の恵那山を貫く日本最長の8489メートルが完成し、中央自動車道の駒ケ根─中津川間が開業した。

▶**沖縄国際海洋博覧会開幕(7月19日)**復帰3年目、沖縄経済振興の起爆剤として期待されたが、入場者は183日間で348万人。写真は浮遊式のアクアポリス。

共同通信社

時事通信社

昭和50年7月

1(火)●第一東京弁護士会会長・吉本英雄、ラスベガス賭博ツアー恐喝事件に関係し辞任。

2(水)●政治資金報告で自民・民社両党への企業献金激減、共産党が一〇〇億円突破。

3(木)●米でトヨタ・日産が輸入車販売一・二位に。

4(金)●小山海運、倒産。海運不況では初の倒産。

5(土)●沢松和子とアン清村、全英テニスの女子ダブルスで優勝。日本人女性では初めて。

6(日)●学校給食用小麦粉へのリジン添加中止、九都府県に広がると新聞に。

7(月)●熊本大がカナダ先住民の水俣病確認と新聞に。

8(火)●田中絹代、「サンダカン八番娼館」でベルリン映画祭最優秀女優賞を受賞。

9(水)●日台民間航空協定、調印。一年ぶり空路再開。

10(木)●香川県のハマチ養殖業者、赤潮被害で国や新日鐵など一〇社に二〇億円余の損害賠償提訴。

11(金)●学校教育法が改正され専修学校制度新設。

12(土)●婦女暴行で学生から告訴された東京女子大の二教授が辞表提出し学生を逆に告訴。

13(日)●「ダウンタウン・ブギウギ・バンド」のつなぎ服が大流行、繊維工場も喜ぶと新聞に。

14(月)●陸奥湾で養殖ホタテ一億枚が奇病死と判明。

15(火)●白木東大教授、東京地裁で田辺製薬がキノホルム原因説を裏づけるデータを隠蔽と証言。

16(水)●「墨東から公害をなくす区民の会」、日本化学工業の工場跡地から六価クロム検出と発表。

17(木)●皇太子、沖縄訪問。ひめゆりの塔の前で沖縄解放同盟の二人が火炎瓶を投げつける。

18(金)●米の「アポロ」とソ連の「ソユーズ」ドッキング。

19(土)●沖縄国際海洋博覧会開幕(～51年1月18日)。

20(日)●足利銀行栃木支店で二億円横領の行員逮捕。

21(月)●国鉄浜松駅で満員電車の天井を落雷が貫通。

22(火)●鈴木勝己、四万八一六九回のなわとび世界新。

23(水)●米価審、消費者米価一九％値上げ案を審議。

24(木)●全国知事会、中学浪人抑制のため三年で四四一の公立高校増設が必要との調査結果発表。

25(金)●夏季ボーナスが前年冬季比七％減と日経連。

26(土)●本田のシビックは五一年規制適合と運輸省。

27(日)●自民党訪朝団、金日成主席と会見。

28(月)●政府、元号検討の公式制度連絡調査会議再開。

29(火)●政府、本四架橋を児島─坂出に一本化、尾道─今治、神戸─鳴門は部分架橋と決定。

30(水)●ヘルシンキで欧州安全保障協力首脳会議。

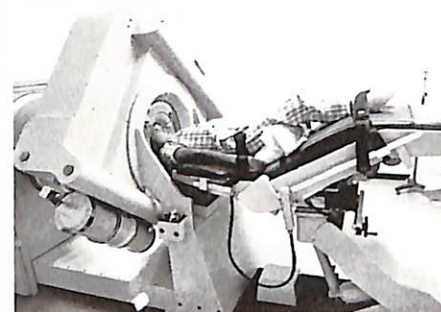
31(木)●『密航白書』発表。韓国からの出稼ぎが増加。

証言・あの日この日

森　有正(63)

8月12日(火)　〈J夫人が言うには、日本共産党が創価学会つまり日蓮宗の一派から出た政治組織と手を結ぶらしい。僕はこの組織を日本人の非常に危険な傾向を示すものと考えていたし、今もそう思っている。ポルトガルの例を見るがよい。共産党は必死になって門戸を開こうとし、昨日の敵とさえ手をつなごうとしている。宇宙ではロシア人がアメリカ人と抱きあって挨拶をかわす。僕はソルジェニツィンの孤独と不安とを非常に高く評価する。徐々に社会化されていく過程で、孤立して個人の道を行く真の人格者が機会をつかむ〉(『森有正(ありまさ)全集』14巻)

日本を捨てパリに暮らしパリに死んだ哲学者、森有正は、日本人離れした、徹底した個人主義者、合理主義者だった。その合理主義は大日本帝国憲法発布の日に暗殺されたハイカラ者の祖父・森有礼(ありのり)ゆずりである。(坪内祐三)

読売新聞社

▲**日本赤軍クアラルンプール事件(8月4日)**米・スウェーデン両大使館を占拠し、米領事らを人質に、日本で拘置中の赤軍派の釈放を要求。政府は超法規的措置で坂東国男ら5人を出国させ、人質と交換した。

◀**日本初、X線使用のCTスキャナー(8月26日)**新宿の東京女子医大で作動したもので、英国製の頭部専用装置。病巣の診断に大きく貢献した。

▼**興人倒産(8月28日)**パルプとレーヨンのメーカーが不動産などの多角化に失敗し、戦後最大の負債総額1500億円で倒産。写真は興人住宅案内所。

読売新聞社

◀**湯川博士、車椅子で出席(8月28日)**闘病中にもかかわらず、京都国際会議場での京都パグウォッシュ・シンポジウムで挨拶し、核兵器廃絶を訴えた。

▼**台風5号が高知県直撃(8月17日)**500ミリを超す豪雨で仁淀川が決壊し、泥の海状態になった。高岡郡日高村(写真)では死者8人、行方不明16人を出した。

読売新聞社

昭和50年8月

1(金)●芥川比呂志・岸田今日子らが劇団「円」結成。

2(土)●吉田拓郎とかぐや姫が五万人集め掛川市でつま恋コンサートを開く。

3(日)●京都でアジア初の国際栄養学会議開催。

4(月)●日本赤軍、クアラルンプールの米・スウェーデン大使館を占拠。同志ら七人の釈放を要求(5日「超法規的措置」で五人出国)。

5(火)●全国銀行協会連合会、政治献金再開を決定。

6(水)●東北に集中豪雨。青森・山形で二七人死亡。

7(木)●熊本県議が「水俣病申請者には二セ患者が多い」と発言(9月25日患者ら県議を告訴)。

8(金)●日本アジア航空(日台空路)設立。
●関越自動車道の川越─東松山間が開通。

9(土)●水俣病の漁業補償金横領の漁協幹部を送検。

10(日)●上海で初の日中野球(愛知工大が七戦全勝)。

11(月)●日本化学工業の「六価クロム禍」は国立公衆衛生院が一六年前に指摘していたことが判明。

12(火)●身障者の中高生四人が津軽海峡をリレー横断。

13(水)●ベトナムへの無償協力が一三五億円で合意。

14(木)●韓国紙の世論調査で日本は「嫌いな国」の三位。

15(金)●三木首相、現職では戦後初めて靖国参拝。

16(土)●都内の公害病認定患者が二〇〇〇人を突破。

17(日)●台風五号、高知上陸(全国で七七人死亡)。

18(月)●前月のタバコ売り上げでセブンスターが一位。

19(火)●解雇問題で現地従業員に監禁されたタイの日系企業の四幹部、二〇日目に解放される。

20(水)●石川県警など、基準値の四〇倍を超す六価クロム排出で小松電気化学工業を捜索。

21(木)●中国向け肥料輸出、前年比五〇％増で妥結。

22(金)●山中湖で合宿中の少年野球団に集団赤痢発生。

23(土)●中央高速の恵那山トンネルが完成。世界二位。

24(日)●石狩川が大雨で氾濫。一万四〇〇〇戸に被害。

25(月)●モロ民族解放戦線、ミンダナオ島旅行中の日本人女性を夫の面前で誘拐(27日解放)。

26(火)●東京女子医大、日本初のCTスキャナー導入。
●国鉄、前年度繰越欠損金二兆一四六三億円で財政再建計画は「破局的状態」と認める。

27(水)●銀行の政治献金再開に抗議する「一円振り込み運動」が広がると新聞に。

28(木)●興人、戦後最大の負債一五〇〇億円で倒産。

29(金)●電話加入数が三〇〇〇万台突破。世界二位。

30(土)●東証上場企業の三分の一、五一一社が来春の大卒新規採用を中止とリクルートセンター。

31(日)●東北大学、全日本大学ボートで初優勝。

共同通信社

▲**天皇・皇后、初の訪米(9月30日)**フォード大統領の招きでワシントン、ニューヨークなど各地を訪問、10月14日帰国した。写真はディズニーランドで。

WWP

▲**フォード米大統領狙撃(9月22日)**選挙を翌年に控えて遊説中、サクラメントに続いてサンフランシスコでも、女性に狙撃されたが弾丸はそれ、無事だった。

▼**警視庁にＳＰ誕生(9月13日)**三木首相の殴打事件を契機に、従来の隠密警護から切り換えた、〝目立つ〟要人警護官(セキュリティ・ポリス)が登場した。

読売新聞社

WWP

◀**トルコ大地震(9月6日)**東部のリジェをM6.8の直下型地震が襲い、町を完全に破壊、死傷者は3500人にのぼった。写真は両親を失い悲しみにくれる少女。

▼**漁船「松生丸」12日ぶりに帰国(9月14日)**黄海海上で、北朝鮮の警備艇に拿捕された際の銃撃で二人が死亡、二人が負傷したが、この日銃撃痕もなまなましく佐賀県に帰港した。

毎日新聞社

▼**谷川岳クリーン作戦(9月28日)**新潟・群馬両県の清掃隊150人が、夏山シーズンでたまった登山道のゴミ1153袋を山頂に集め、陸上自衛隊のヘリコプターが10往復して運びおろした。

◀**二所ノ関部屋分裂騒動(9月4日)**後継者問題から、元大関大麒麟の押尾川親方は、青葉城、天竜ら力士16人と独立を宣言。東京・谷中の瑞輪寺にこもった。写真は秋場所を前に墓地で稽古する力士たち。結局和解が成立し、11日部屋に戻った。

報知新聞社

▼**就職難(10月11日)**深刻な不況の中で翌年春の就職戦線は、大手企業の29パーセントが採用ゼロを決定、公務員の希望者が急増した。写真は厳しい状況を踏まえて檄が飛ぶ新潟大の就職掲示板。

共同通信社

◀**人気の原辰徳(10月27日)**この日、三重県で国体の高校野球が始まり、夏の甲子園では優勝候補と目されながらベスト8に終わった東海大相模高校が登場。4番原辰徳はアイドル的な人気を集め、プロ野球の新スター誕生を予感させた。

共同通信社

◀**天皇・皇后、初の記者会見(10月31日)**日本記者クラブ主催により30分間行われ、訪米の印象など十数項目の質問が出された。原爆投下について天皇は「気の毒だがやむをえなかった」と述べた。

読売新聞社

日刊スポーツ

▲**宝塚歌劇「ベルサイユのばら」に観客殺到(10月4日)**前年初演以来、翌年の再々上演まで観客140万人を記録。この日、花組11月公演前売り券を求めて、東京宝塚劇場前に2500人が並んだ。

昭和50年9月

1(月)●宅地開発公団(現＝住宅・都市整備公団)発足。
●国内航空三社、この日から「騒音迷惑料」としてジェット機乗客から六〇〇円を徴収。
2(火)●北朝鮮、佐賀県の漁船「松生丸」を銃撃し拿捕。二人死亡(14日帰国)。
3(水)●四~六月のGNPが三期ぶり増加と経企庁。
4(木)●横須賀市のアパートで中核派が爆弾製造中に爆発事故。五人死亡、八人重軽傷。
5(金)●越谷市で登校拒否の高校生が祖母絞殺と発覚。
6(土)●山口組組長宅など一斉捜索し五五人逮捕。
7(日)●全国干潟シンポジウム開催。四四団体参加。
8(月)●北海道三井砂川鉱業所で鉱石崩落。五人死亡。
9(火)●日本初の誘導式Nロケット一号機打ち上げ。
10(水)●不況のため、企業の学生採用基準に指定校制や縁故・成績重視主義が復活と新聞に。
11(木)●東京都、暴力団の都営葬儀所使用拒否を決定。
12(金)●大阪の天王寺動物園でライオンとトラの混血「ライガー」が誕生。
13(土)●警視庁、要人警護のSP設置。隊員一七二人。
14(日)●この日で九連敗の巨人入団テストに一六九人。
15(月)●中国で「農業は大寨に学べ全国会議」開催。
16(火)●自衛隊小松基地の周辺住民、騒音公害提訴。
17(水)●岡本太郎、パリ国際会議場に「太陽と月」「いこい」など五点の巨大壁画を完成。
18(木)●前年誘拐された新聞王の娘パトリシア・ハースト、ゲリラ組織の武装闘争参加で逮捕。
19(金)●東アジア反日武装戦線の「虹作戦」(前年の天皇特別列車爆破計画)が明らかになる。
20(土)●天皇、米「ニューズ・ウィーク」誌との会見で、「終戦は私の決定、開戦は閣議」と発言。
21(日)●都獣医師会、子犬・子猫の里親探し大会開催。
22(月)●中国、台湾のスパイ容疑で勾留一〇年の日本人二人を国外退去処分にすると通告。
23(火)●公衆電話にプッシュホンの使用開始。
24(水)●東南アジア条約機構、段階的解消で合意。
25(木)●東京都大田区の運河でハゼ三〇〇〇尾が酸欠死。
26(金)●ミンダナオ島で武装ゲリラが日本の木材運搬船を乗っ取り四〇〇〇万円要求(29日投降)。
27(土)●テレビ「夫婦善哉」がこの日で最終回。
28(日)●谷川連峰のゴミ一〇トンを山麓にヘリ輸送。
29(月)●高円寺など中央線三駅にエスカレーター設置。
30(火)●天皇、初の訪米に出発(~10月14日)。
●女性団体、ハウス食品CM「私作る人、僕食べる人」は女性差別と抗議(10月放送中止)。

昭和50年10月

1(水)●第一二回国勢調査(人口一億一一九三万人)。
2(木)●全国市長会、地方財政危機突破大会を開催。
3(金)●在日韓国人牧師、ニュースで名前を日本語読みしたNHKに謝罪求め提訴。
4(土)●女子バスケット日本チームで身長が最も低い生井けいこ、世界選手権で最優秀選手に。
5(日)●八丈島で観測史上最高の風速六七・八メートル記録。
6(月)●日立造船労使、労組の経営参加を初めて協約。
7(火)●メキシコ、二〇〇カイリ水域を一方的に宣言。
●P&G系列会社、ミツワ石鹸の工場を買収。
8(水)●ソウルで五五日間に一七人殺害の男逮捕。
9(木)●公取委、韓国産「大島紬」や合成の「新みりん」を不当表示で排除命令。
10(金)●航空機騒音基準適合証明制度、実施。DC8とボーイング727は不合格。
11(土)●島津斉彬の肖像原板が日本最古の写真と判明。
12(日)●田中光夫、糸一本で凧三四三個を揚げ世界新。
13(月)●エール・フランス、パリに転住しなければスチュワーデスを解雇するとの方針を撤回。
14(火)●研究開発費の国庫負担を欧米並みにと経団連。
15(水)●広島東洋カープ、球団創立二六年で初優勝。
16(木)●「嗚呼!!花の応援団」(どおくまんプロ)、この日付号の「漫画アクション」で連載開始。
17(金)●破産寸前のニューヨーク市、市債償還日のこの日に市教組が投資決定し破産回避。
18(土)●NHK受信料値上げ反対の連絡会議結成。
19(日)●去勢・避妊手術受け無気力猫が増加と新聞に。
20(月)●国鉄総裁、労組に条件つきスト権付与を確認。
●横浜地裁、団地の階下のピアノがうるさいと母子三人を刺殺した前年の事件に死刑判決。
21(火)●日本の核廃棄物再処理工場を英に建設との日英秘密交渉が明らかになる。
22(水)●松下電器、管理職の賃上げ凍結を解除。
23(木)●社会党の楢崎弥之助、衆院予算委でロッキード社の対日売り込み贈賄に関し質問。
24(金)●アイスランドで一九歳以上の全女性が、女性の存在認めよとゼネスト。国内は麻痺状態に。
25(土)●沼津沖で海底一〇〇メートルのシートピア実験開始。
26(日)●首都圏の主婦は一日五時間もテレビと新聞に。
27(月)●駅売り夕刊紙「日刊ゲンダイ」創刊。
28(火)●松竹劇場専属楽団の争議が一五八日ぶり解決。
29(水)●送金絶えたベトナム留学生三九人が米へ出発。
30(木)●千葉県、大手三六社と公害防止協定を締結。
31(金)●新日鐵室蘭、三号高炉停止を決定。戦後初

▲「リブ号」、沖縄に到着（11月18日）海洋博協会主催のヨットレースに参加した小林則子は、サンフランシスコから沖縄をめざし女性として単独世界最長帆走と、初の太平洋横断を達成した。

WWP

▲フランスで第1回サミット開催（11月15日）パリ近郊のランブイエ城に日・米・英など6ヵ国の首脳が集まり、最終日の17日、景気、通貨など15項目のランブイエ宣言を採択した。

▼昭和生まれで初の、文化勲章（11月3日）米ハーバード大教授で、数学者の広中平祐は、山口県で郷里の人々と受章の喜びを分かち合った。

毎日新聞社

◀大阪空港公害訴訟、住民側勝訴（11月27日）川西・豊中両市の住民が国を相手に争っていたもの。大阪高裁が下した判決によって、午後9時以降の飛行が禁止され、新幹線騒音などの公害訴訟にも影響を与えた。

▼太秦の映画村オープン（11月1日）京都市右京区太秦の東映撮影所内に作られたもので、映画の歴史・資料の展示室、時代劇のオープンセットがあり、開場1ヵ月で30万人が入場した。

WWP

▲スペインで王政復古、フアン・カルロス即位（11月22日）36年間総統の地位にあったフランコ死去の2日後、国王に即位したもの。翌年国王は、首相にアドルフォ・スアレスを指名し、徐々に民主化体制に向かった。

朝日新聞社

共同通信社

昭和50年11月

1（土）●東映京都撮影所に太秦映画村がオープン。
2（日）●戸塚宏、太平洋単独横断ヨットレースで優勝。
3（月）●広中平祐、昭和生まれで初の文化勲章受章。
4（火）●国連、対南ア石油禁輸決議。日本の貿易非難。
5（水）●都内の交通死亡ゼロの日、この年一二四回目。
6（木）●スペイン領西サハラの帰属求めるモロッコ国民三五万人が同地へ「サハラ行進」開始。
●カシオ計算機、四五〇〇円の電卓を発売。
7（金）●現金自動支払機が提携銀行間でも使用可能に。
●ミンダナオ島沖でイスラムゲリラが漁船を襲い日本人船員六人拉致（12月6日釈放）。
8（土）●東京六大学出身プロが発足五〇周年記念試合。
9（日）●沖縄で非行注意された中学生が職員室を爆破。
10（月）●米ニュージャージー州高裁、植物状態のカレン・クラインに安楽死求める両親の訴え却下。
11（火）●日本自動車ユーザーユニオン、独自に調査した欠陥車リストを運輸省に提出。
12（水）●東京湾で旧日本軍の毒ガス弾掃海作業を開始。
13（木）●内紛続く真宗大谷派で、宗議会が大谷光暢管長の役員人事権を奪う条例改正可決。
●江戸川でシアン検出。金町浄水場が取水停止。
14（金）●中高生への求人が前年比四割減と労働省調査。
15（土）●仏のランブイエで第一回先進国首脳会議（サミット）開催。
16（日）●日本テレビ、自治体広報番組に手話通訳採用。
17（月）●国際環境保全科学会議開催。三一ヵ国参加。
18（火）●小林則子、女性初のヨットでの太平洋横断。
●大学・短大生が二〇〇万人突破と文部省発表。
19（水）●豊中の農協貸付係を一〇億円不正融資で逮捕。
20（木）●国鉄、特急料金など平均三二%の値上げ実施。
21（金）●大阪市の三井物産駐車場で消火器爆弾爆発。
22（土）●過疎地域は全国土の四一%と国土庁発表。
23（日）●前年の労働生産性が五%の大幅下落と労働省。
24（月）●障害者の生活と権利を守る全国協議会開会。
25（火）●日本ハムの張本勲、巨人へトレードと発表。
26（水）●公労協、スト権奪還ストに突入。国鉄は一九二時間全面ストップ（12月3日終息）。
27（木）●大阪高裁、大阪空港公害訴訟で夜間発着禁止、損害賠償支払いなど原告全面勝訴の判決。
●北海道の幌内炭鉱でガス爆発。二四人死亡。
28（金）●東チモール独立革命戦線、ポルトガルからの独立を宣言（インドネシア軍、首都を占拠）。
29（土）●市原のゴルフ場工事現場で山崩れ。八人死亡。
30（日）●佐木隆三『復讐するは我にあり』刊行。

▲さよならSL（12月14日）「SLの貴婦人」と呼ばれたC57形が旅客列車を引いて、室蘭本線の室蘭一岩見沢間を走った。沿線には、カメラを手にした2万5000人のファンが並び、最後のSLに別れをおしんだ。

読売新聞社

読売新聞社

共同通信社

▶ヤンマーの釜本、5年連続得点王（12月14日）第11回日本サッカーリーグが終了し、ヤンマーディーゼルが2年連続優勝。釜本は最終戦で17得点目。

◀超高層ビルにサンタクロース（12月24日）東京の新宿三井ビルの外壁に、ブラインドの開閉と室内の明かりで描いたもの。サンタの身長は113メートル。

日刊スポーツ

▲スト権奪還スト渦中（12月1日）公労協のストのため、11月26日から8日間、国鉄がストップ。写真は地下鉄東西線西船橋駅に押し寄せる人波。

▶3億円事件時効成立（12月10日）事件から7年がすぎ、午前零時に刑事の時効となり、東京・府中警察署で記者会見が行われた。捜査員は延べ10万人。

昭和50年12月

1（月）●電子計算機関連の資本完全自由化を実施。
2（火）●イスラエル、レバノンの難民キャンプ爆撃。
3（水）●自民党、衆院大蔵委で財政特例法案強行採決。
4（木）●ガッツ石松、五度目の防衛（この年、小熊正二・花形進・輪島功一・柴田国明が王座失う）。
5（金）●完全失業者一〇三万人で二〇年ぶりの高水準。
6（土）●スピルバーグ監督「ジョーズ」封切。
7（日）●財政難で七六%の町村が議員数削減と判明。
8（月）●二二億円着服の八尾市農協元支店長ら逮捕。
9（火）●部落解放同盟、企業防衛懇話会刊行の「地名総鑑」極秘売買問題につき追及を開始。
●文部省、学校給食に米食を段階的導入と決定。
10（水）●午前零時、三億円事件（43年12月）の時効成立。
11（木）●公害被害補償地域に一四地域新指定。大阪市は全域、東京二三区中一九区が指定地域に。
12（金）●新幹線技術の初輸出をイランにと閣議了承。
●田中金脈の新星企業事件で前・現社長有罪。
13（土）●ミクロネシアのヤップから住民六人がカヌーで三〇〇〇キロ航海、沖縄海洋博会場に到着。
14（日）●国鉄室蘭本線の日本最後のSL旅客列車廃止。
15（月）●東洋紡績・鐘紡・ユニチカ、技術提携を推進。
16（火）●地方自治六団体が財政危機突破大会を開催。
17（水）●アンカレジ空港で日航機が誘導路から転落。
18（木）●海外航空二八社、騒音対策で徴収している特別着陸料は条約違反と東京地裁に提訴。
●タバコのセブンスターが五割高一五〇円に。
19（金）●農相、今年度米の単位面積収量は過去最高、総量で史上四位の大豊作と閣議報告。
20（土）●第二次家永教科書裁判で東京高裁、不合格処分は違法と国の控訴棄却。憲法判断避ける。
21（日）●パレスチナ・ゲリラ、OPEC本部を占拠。
●本四連絡橋の尾道―今治ルートの起工式開催。
22（月）●クロロキン網膜症患者二三一人、国と製薬会社に六四億円の損害賠償提訴。
23（火）●日航、リニアモーターカーの浮上実験に成功。
24（水）●赤字国債発行のための財政特例法成立。
25（木）●子門真人歌「およげ！たいやきくん」発売。
26（金）●文部省、主任制度の実施（51年3月）を公示。
27（土）●石油備蓄法公布。五四年度末に九〇日分目標。
28（日）●農林省が内部資料で有吉佐和子の「複合汚染」に「有機農業は生産性低い」と反論、と新聞に。
29（月）●英、性差別禁止法と男女同一賃金法施行。
30（火）●東京・上野アメ横への人出が一〇〇万人記録。
31（水）●次年度予算案決定。国債依存度二九・九%。

我楽多市

流行語

“激〇”時代を切り開いた

「激写」。小学館の雑誌「GORO」四月号に“激写・山口百恵”というグラビアが掲載された。撮影は篠山紀信、「激写」という言葉も彼の造語である。これが大流行、以来、「激唱」「激セ（プロ野球）」「激愛」など、何でも“激〇”の時代が到来。「激辛」「激安」などは普通の言葉として定着した。

「アンタ、あの娘の何なのさ」。この年、ダウンタウン・ブギウギ・バンドの歌う「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」（作詞・阿木燿子）が大ヒットした。「アンタ……」はその歌詞の一節で、不良っぽい感じと洒落た雰囲気から若者に流用された。

「まけそー」。まいった、すごいといった意味の言葉で、OLなどが図々しい同僚などに対する皮肉として使ったものが、社会現象にまで転用されるようになった。

「逆マジック」。この年のプロ野球は広島が初優勝し、「赤ヘル」が流行語になる一方、長嶋巨人は最下位に沈没。最下位決定まであと何敗という意味で、この珍語が登場した。

▲10月27日、講談社から「日刊ゲンダイ」創刊。タブロイド判でニュースの雑誌的掘り下げをめざした。

子ども

昔、魚釣り、今、テレビ 子どもの遊びの変化

横浜の「環境デザイン研究所」が市内の子どもを対象に、一五年前とこの年の遊びの変化を調査した。まず昭和三五年のベストファイブは、①魚釣り・ザリガニとり、②野球、③ベーゴマ・コマ、④木の実・草花採集、⑤カン蹴り。

そして昭和五〇年は男の子が①ラジオ・テレビ、②野球、③ボール遊び、④自転車、⑤昆虫採集の順。一方、女の子は①ラジオ・テレビ、②ブランコ、③水泳、④ボール遊び、⑤鉄棒という順。なお男女とも「鬼ごっこ」が一〇位に入り、遊びの世界にも、ちらりとレトロブームが顔をのぞかせた。

（「毎日新聞」五月五日）

CM100年

▼CMの最後に白眼をむいてしまう猿が、生命保険の広告では珍しく死を表現しているということで話題になった。

テレビCF「アイム・ア・チャンピオン」（明治生命）

▲「嗚呼!! 花の応援団」の連載が「漫画アクション」で始まり、暴力をギャグにして人気を呼んだ。

文化

幻の無声映画「母」発見！

高峰秀子のデビュー作で、幻の無声映画と言われていた「母」（昭和四年）が金沢で発見された。「母」は昭和初期に一世を風靡した母もの映画のはしり。主演の川田芳子の娘役を公募したところ、オーディションを見物していた当時五歳の高峰秀子がスカウトされ、この映画で天才子役と言われた。

フィルムを所蔵していたのは金沢市内の浅田二郎さん。浅田さんは昭和八年から無声映画のコレクションを始め「滝の白糸」「チャップリンの撮影所は大騒動」など六十数本を所蔵している。たまたま東京の無声映画鑑賞会（松田春翠会長）が消失した作品のひとつとして「母」をあげているのを知り、自分のコレクションを見直して発見した。フィルムはボロボロだが、松田会長が修復、近く弁士・伴奏音楽つきで上映される。

（「北国新聞」四月一日）

データ

五〇年で一一〇㌶からゼロ 東京・目黒区の田んぼ

目黒区は昭和とともに急速に農村から住宅地へ変貌した。元年に一一〇・八㌶あった田んぼはゼロ。七〇二㌶の畑は九・六㌶と五〇年で九九㌫の農地が消えた。

（『目黒区史』）

▼9月から黄色のプッシュ式公衆電話機が登場。110番、119番への緊急通報は赤ボタンで。

はやり歌

およげ！たいやきくん　作詞 高田ひろお　作曲 佐瀬寿一

毎日毎日 僕らは鉄板の
上で焼かれて 嫌になっちゃうよ
ある朝僕は 店のおじさんと
喧嘩して 海に逃げ込んだのさ

初めて泳いだ 海の底
とってもきもちが いいもんだ
お腹のアンコが 重いけど
海は広いぜ こころがはずむ
桃色サンゴが 手をふって
僕の泳ぎを 眺めていたよ

毎日毎日 楽しいことばかり
難破船が 僕の住み家さ
ときどきサメに いじめられるけど
そんなときゃ そうさ逃げるのさ

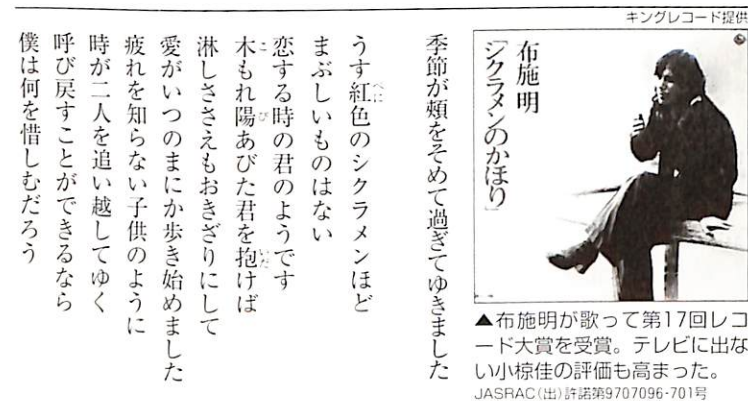
いちにち泳げば 腹ペコさ
眼玉もクルクル まわっちゃう
たまにはエビでも くわなけりゃ
塩水ばかりじゃ ふやけてしまう
岩場のかげから くいつけば
それは小さな 釣針だった

▲テレビの幼児番組で子門真人が歌ったが、歌詞がサラリーマンの悲哀とダブって大ヒット。

シクラメンのかほり　作詞 小椋佳　作曲 小椋佳

真綿色したシクラメンほど
清しいものはない
出逢いの時の君のようです
ためらいがちにかけた言葉に
驚いたようにふりむく君に
季節が頬をそめて過ぎてゆきました

うす紅色のシクラメンほど
まぶしいものはない
恋する時の君のようです
木もれ陽あびた君を抱けば
淋しささえもおきざりにして
愛がいつのまにか歩き始めました

疲れを知らない子供のように
時が二人を追い越してゆく
呼び戻すことができるなら
僕は何を惜しむだろう

▲布施明が歌って第17回レコード大賞を受賞。テレビに出ない小椋佳の評価も高まった。

JASRAC（出）許諾第9707096-701号

三面記事

夫婦交換のはずがブタ箱へ

〔大分発〕スワッピングしようとした二組の夫婦が、その直前に嫉妬から男同士の喧嘩に発展、大分署に逮捕された。この二組は大分市内の同じアパートに住むA（三三＝無職）とB（三〇＝大工）の夫婦。

九月一日、Aの部屋で仲よくビールを飲んでいた四人は、話が盛り上がって「夫婦交換をやろうか」と言い出し、二人の女性も大乗り気。まずAが、Bの妻C子さん（二七）と近くの食堂に行き、飲み直しながらムードを高めていた。そこへAの妻を連れたBが入ってきたが、二人のあつあつぶりに逆上、「でれでれするな」と言って、いきなりC子さんを殴りつけた。それを見たAが「約束が違う」と言ってBを殴ったところから取っ組み合いの大喧嘩。二人とも顔にケガをして、傷害の現行犯でブタ箱行きとなった。

（「大分合同新聞」九月三日）

▲熊谷市の鈴木勝己が5時間11分、4万8169回のなわとび世界新。

▲群馬県嬬恋村では八月二八日から高原キャベツの出荷を停止した。豊作で市場価格が暴落したためで、牛のエサになった。

社会

女性の柔道有段者激増 “当世女気質”調査

女性が強くなった。積極的になったと言われるが、はたしてそうか、女性週刊誌が調査した。特徴的なのは力を誇示する面での女性の進出。たとえば講道館の女性有段者は、昭和四〇年の場合初段四五〇人で最高位の五段が四人、五〇年は初段一四八六人で、六段が三人。男性有段者は激減している。大山倍達さんの空手道場でも、五年前には二人だった女弟子が二〇〇人、うち初段が三人。

セックス面も大いに積極的で、フリーセックスの賛成者は、男性五・三㌫に対して、女性は一八・二㌫。ラブホテルで女性が料金を払うシーンも最近は珍しくなくなった。

（「週刊ヤングレディ」六月一六日号）

泥棒

金庫破りの“恨み”の置き手紙

〔長崎発〕長崎県佐世保市の生命保険会社に金庫破りが侵入、備えつけてある大型金庫を電気ドリルや鉄切りノコでしっちゃかめっちゃかに壊し、中に入れてあった金二〇万円ナリを奪ってドロンした。ただし壊すまでがよほど難工事だったらしく、金庫の側面に恨みの一筆。

「金庫を破られない法。夜間は現金を中に入れず、金庫の上に裸で最低五〇万円置いておくこと」

（「週刊文春」二月二六日号）

裁判

セックス減退をブリンナーが訴訟

有名俳優のユル・ブリンナーが「スペアリブを食べて旋毛虫病（寄生虫病の一種）にかかり、セックスが減退した」と、ニューヨークのレストランを相手どって訴訟を起こした。その要求額が二・二億円。セックス何回分のつもりだろうというのが巷の噂。

（「サンケイスポーツ」三月一一日）

この年の初もの

巨大迷路の第一号 静岡県伊東に

●**無人スーパー**　東京・国分寺市に「オーケー」開店、世界初。

●**DH制**　プロ野球の指名打者制のことでパリーグが採用。

●**東洋医学科**　近大医学部が開設、九月から診療開始。

●**猫マニア向け本**　アメリカで『キャット』が一〇〇万部のベストセラーに。

▶四月五日放映開始の「欽ドン」が「ばかうけ」。萩本欽一と歌手の前川清（左）。

世界の動き

「この町はホー・チ・ミンの町になった」サイゴン陥落！三〇年におよぶ〝ベトナム戦争〟終結

一九七五年四月三〇日、南ベトナム解放民族戦線軍と北ベトナム軍が首都サイゴンに無血入城。旧宗主国フランスとの植民地解放闘争から三〇年、北爆によるアメリカの本格的武力介入から一〇年。ベトナム戦争はようやく終結し、ベトナムは民族独立の悲願を達成した。

▲4月30日午後1時30分、サイゴンのトゥ・ドゥー通りを進む解放軍の機甲部隊。下院議事堂前では、市民たちも手を振り、なごやかなパレードの雰囲気に。右手の建物はコンチネンタル・パレス・ホテル。 鍵和田良輔

解放されたサイゴン ホー・チ・ミンの町に

「解放軍の戦車が市内に入ったという知らせを聞き、私は支局を飛び出し大統領官邸に向かいました。最初、街は犬一匹見ることができないほど森閑（しんかん）として不気味さが漂っていましたが、戦車が通りすぎると、商店のシャッターは一斉に開き、中からは民衆が飛び出し、戦車の後を追いながら官邸前に詰めかけたのです」

こう語るのは当時「朝日新聞」特派員（現・熊本朝日放送社長）の山本博昭氏である。

「政府軍将兵はただちに戦闘を中止せよ。我々は国民の流血を避けるために臨時革命政府と会うのを待っている」

一九七五年四月三〇日サイゴン陥落のその日、南ベトナム政府のズオン・バン・ミン大統領（五九）は午前一〇時一五分（日本時間一一時一五分）、国営放送を通じて解放勢力への無条件降伏声明を読み上げた。

その約二時間後の正午、解放軍はソ連製T54型戦車（車体番号879）を先頭に大統領官邸に突入、またたく間に官邸を占拠し、屋上のベトナム共和国旗は臨時革命政府の青と赤地に金色の星を配した二色金星旗にとって代わられた。

そしてその後、解放勢力側はラジオを通じ「サイゴンは完全に解放された。この町はホー・チ・ミンの町となった」と高らかにうたい上げ、ベトナム戦争の完全な終結を宣言した。

その間、戦車やトラックに乗った解放軍兵士が官邸付近に続々到着すると、隠されていた大小の二色金星旗が市内の各所にひるがえり、官邸前に押しかけた人々からは拍手と歓声が沸き上（わ）がった。

街角では市民と解放軍兵士の交歓風景もあちこちで見られるようになり、殺気だった空気はゆっくりと冷めていった。

官邸内にはズオン・バン・ミン大統領と閣僚がとどまっていたが、乗りこんできた解放軍側の指揮官と言葉を交わした後、静かに官邸を去っていった。

サイゴン市内には、カーキ色の軍服にサンダルばきの解放軍兵士が旧政府軍掃討のために配置されたが、市民に対する目立った規制はなく、市民の一部が散乱した政府軍の武器を自主的に回収する姿が見られたほどである。

アメリカ軍の撤退 三〇年の死闘に幕

本格的な和平に向け、アメリカ、南北ベトナム、解放戦線によるパリ和平協定が調印されたのは、二年前の一九七三年一月二七日のことであった。三月にはアメリカ軍最後の戦闘部隊である第一戦闘航空団が解散式を行い、いっさいの戦闘行動に終止符が打たれたのはその年の三月。ニクソン米大統領は「米国にとってベトナム戦争は終結した」と宣言した。

しかしアメリカの「名誉ある撤退」後も解放勢力と南ベトナム政府軍は、双方で「停戦協定違反」と非難を繰り返した。七五年に入ると、解放軍は軍事的攻勢を強め、中部高原や北部で大攻勢に打って出る。しかもアメリカはすでに介入の意図も力も持っていなかったため、首都サイゴンをめざす南下の速度は速まった。

▶離陸寸前の脱出機に乗りこもうとするベトナム人を、なぐりつける米人。四月一日、ニャチャンで。

タイ カク チュオン　CORBIS-BETTMANN　PPS

外から見たNIPPON

インドネシア外相が示した台湾人元日本兵への〝道義〟

──佐伯 修

一九七〇年代の前半には、太平洋の島々に、大戦中からずっと潜伏していた日本兵の帰還が相次いだが、この前年末の昭和四九年一二月二五日には、インドネシア領のモロタイ島で、日本の植民地だった台湾出身の中村輝夫一等兵が〝発見〟された。

この中村元一等兵に対する日本政府の扱いに関して、インドネシア外相のアダム・マリクは、地元紙「コンパス」に異例のコメントを発表。その要旨は、昭和五〇年の元旦付の日本の新聞でも報じられた。

「一、日本政府は中村さんを十分支援すべきである。彼は台湾出身者という理由で元日本兵としての適切な権利を受けられない可能性がある。どうして日本はたった一人の人間を支援することができないのか。

一、中村さんが〝二級国民〟として扱われることなく、あらゆる権利を受けるため、まず最初に東京に帰還できれば好ましい。その後どこで余生をすごそうと、それは彼次第である」(「読売新聞」一月一日)

WWP

▶スカルノ、スハルト両政権で閣僚を歴任。

中村元一等兵は、本人の希望により、一月八日、台湾に直接帰還した。右のマリクの「東京に帰還」というくだりの真意は、あくまで、日本政府に、中村元一等兵を、ほかの日本人帰還兵と平等に、自国の旧軍兵士として扱うよう求めたものである。実は、日本政府は、中村元一等兵の意向を訊く前から、彼の身柄引き取りを渋っていた。

そして、日本政府の中村元一等兵に対する扱いは、前年の二月に〝発見〟された小野田寛郎元少尉らへの扱いに比べ、格段に簡単なものとなった。そこには、旧植民地出身の軍人・軍属への待遇、補償という〝難問〟を極力かわそうという意図と、中村元一等兵が、国交を断絶した国民党政権の台湾出身者だったため、中華人民共和国政府への気がねの双方が感じられる。後者の理由からか、日本のマスコミの反応も、比較的あっさりしたものだった。

中村輝夫こと、かつて「高砂族」と呼ばれた台湾山地人のひとつ、アミ族のアスン・バラリン、中国名・李光輝は、この四年半後、故郷の東花郷でひっそりと世を去った。日本からの見舞い金は、民間からのものを含め、約六〇〇万円であり、横井庄一元軍曹に対する見舞い金の約四分の一である。そんな彼の処遇についてのマリクの発言は、為政者の言だが、政略的な意図はなく、道義上の意見だったと見ていいだろう。

アダム・マリク(一九一七〜八四)は、少年時代から独立運動に参加、戦時中は日本の軍政に一時協力した経歴も持つ。

三月二九日には南ベトナム最大の軍事都市ダナンが陥落、その後、解放軍はクイニョン、カムランを進み、政府軍の勢力がおよぶ範囲は首都から一〇〇キロ圏にしぼられていった。

それに対して南ベトナム政府は最後のあがきを見せた。四月一七日、隣国カンボジアの首都プノンペンが解放勢力の手に落ちると、アメリカに見捨てられたグエン・バン・チュー大統領は二一日に辞任、〝国民的英雄〟ズオン・バン・ミン将軍が二八日に新大統領に就任した。しかし、解放軍は、二九日午後八時サイゴン郊外のタンソンニュット空港を砲撃・制圧し、翌三〇日のサイゴン市内への突入態勢を完了。南ベトナム政府要人や閉鎖されたアメリカ大使館の職員らがヘリコプターやバスで先を争い脱出をはかるなど、市内はまさに断末魔の様相を呈したのである。

アメリカが一九六五年に北爆を開始してから一〇年。太平洋戦争での日本の敗北後、フランスからの独立をめざす戦いからは三〇年にもおよんだ戦争は、こうして幕を閉じた。一三八九億ドル(約四二兆円)の戦費をつぎこんだ米軍の死傷者は三六万三三五〇人、解放軍の死者は六六万六〇〇〇人、南ベトナム政府軍の死傷者は七二万人以上にのぼる。

法政大学教授の袖井林二郎氏は「一九五〇年代にダレス＝アイゼンハワーの外交路線が推し進めたドミノ理論(将棋倒し理論)が背景にあり、ジョンソン大統領にいたって本格的な介入が始まると、メンツを守ろうとしてアメリカは引くに引けなくなった。後にマクナマラ国防長官が回顧録で述べたように、〝最初から最後まで間違っていた戦争〟であり、アメリカにとっては何も得るところがなかっただけでなく、歴史上最初の敗北という、あまりにも高すぎる代償を支払った恥ずべき戦争でした」と語っている。

一方、一九七六年六月にベトナム社会主義共和国が成立し、南ベトナム臨時革命政府とその母体である解放戦線は歴史的役割を終えた。しかし、その後の急激な社会主義経済建設は内外に軋轢を生み、ベトナムは真の〝統一〟に向けて、なお苦難の道を歩むことになる。

小川 卓

▶北ベトナム軍兵士に囲まれて官邸を去るベトナム共和国最後の大統領、ズオン・バン・ミン。

往きて還らぬ

▲1月1日 荻野久作(92)
オギノ式避妊法で知られる産婦人科医。助産婦の養成にも尽力し、昭和30年、世界不妊学会の名誉会長に。

▲3月6日 石坂泰三(88)
実業家。東芝、アラビア石油会長などを歴任。昭和31年から12年間経団連会長をつとめ、〝財界総理〟と言われた。

共同通信社

▲3月15日 A・S・オナシス(69)
ギリシャの〝海運王〟。第2次大戦後、タンカー建造などで財を築いた。1968年、ケネディ米大統領未亡人と再婚。

▲4月12日 ジョセフィン・ベーカー(68)
パリのミュージックホールで活躍した歌手・ダンサー。戦後は人種差別撤廃運動、孤児救済活動でも知られる。

▲5月6日 古畑種基(83)
元東大教授。法医学者で、犯罪医学、特に血液型研究の権威。帝銀事件では毒物を鑑定。昭和31年文化勲章受章。

◀8月9日 D・ショスタコーヴィチ(68)
ソ連の作曲家で、ピアニスト。第2次大戦後は平和運動に尽力し、1953年世界平和賞を受賞。代表作「森の歌」など。

▶9月13日 棟方志功(72)
版画家。昭和一三年新文展で「善知鳥」が特選。戦後、国際的にも認められた。四五年文化勲章受章。

▲6月23日 林武(78)
画家。大正10年二科展に初入選。重厚な作風で知られる。昭和42年文化勲章受章。代表作「コワヒューズ」「梳る女」。

▲6月30日 金子光晴(79)
詩人。大正8年処女詩集『赤土の家』刊行。戦時中は抵抗詩を発表、戦後は洒脱な言動で広く人気を呼んだ。

▲10月22日 A・J・トインビー(86)
イギリスの歴史学者。古代文明を研究し、『歴史の研究』全12巻(1934〜61年)は世界的名著と言われる。3度来日。

▲12月3日 鹿島守之助(79)
元鹿島建設社長。昭和13年社長に就任、28年に政界入り。34年『日英外交史』などで学士院賞受賞。ほか著書多数。

▲12月6日 正木ひろし(79)
弁護士。昭和19年「首なし事件」で警察官を告発、戦後は「菅生事件」「八海事件」などを弁護。著書に『裁判官』。

共同通信社

▲12月19日 木谷実(66)
囲碁棋士九段。小学生で入門、四段の時10人抜きをして〝怪童丸〟と言われた。木谷道場で多くの棋士を養成。

既刊32冊！ 1940年代と1960年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第33号 9月30日(火)発売 定価560円 本体533円 毎週火曜日発売 講談社

1977［昭和52年］

●特集
過激にデビュー、衝撃的に引退！「ピンク・レディー」と「キャンディーズ」／七五六号は右翼席に突き刺さった 王貞治、「一本足打法」で世界新！／「解体」され、伊藤忠に吸収された名門・安宅マン三六〇〇人の運命／犠牲者三〇万人！ウガンダの恐怖・アミン大統領の素顔

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…田中角栄前首相、初公判（1月27日）／空港公団、成田鉄塔を強制撤去（5月6日）／米、フロンガスの全面禁止を発表（5月11日）／樋口久子、全米女子プロ制覇（6月12日）／有珠山、大噴火（8月7日）／米戦闘機、横浜市の住宅地に墜落（9月27日）／日本赤軍、日航機ハイジャック（9月28日）

●人物クローズアップ
山下泰裕、全日本柔道に史上最年少優勝

●決定的瞬間
古代恐竜か!? “ニュー・ネッシー”騒動

●美の出会い
日劇ダンシング・チーム最終公演

●女たちの肖像…森英恵、パリ進出／勝者・敗者…“ジャンプ”の佐野稔、メダル獲得／証言・あの日この日…つげ義春、常盤新平／20世紀博物館…新冠町レ・コード館（北海道）／「現場」を歩く…品川“青酸入りコーラ”事件／外から見たNIPPON…映画監督ペキンパーの日本への旅

●ベストセラー…A・ヘイリー『ルーツ』／スターと名場面…“天は我らを……”「八甲田山」／モノ語り'77…「プリントゴッコ」「ふとん乾燥機」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

創刊号1959［昭和34年］ 第2号1964［昭和39年］ 第3号1945［昭和20年］ 第4号1970［昭和45年］ 第5号1963［昭和38年］ 第6号1958［昭和33年］ 第7号1972［昭和47年］ 第8号1980［昭和55年］ 第9号1976［昭和51年］ 第10号1989［平成元年］

第11号1960［昭和35年］ 第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］ 第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］

第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］ 第28号1923［大正12年］ 第29号1971［昭和46年］ 第30号1973［昭和48年］

第31号1974［昭和49年］ 第34号1978［昭和53年］ 第35号1979［昭和54年］ 第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］

■今後の刊行予定

▶第38号1953［昭和28年］11月11日発売
“テレビと力道山”時代●軍事基地・沖縄の苦悩●伊東絹子と「八頭身」ブーム●エベレスト初登頂

▶第39号1954［昭和29年］11月18日発売
ゴジラと「第五福竜丸」事件●「洞爺丸」沈没●自衛隊発足●「ローマの休日」とヘプバーン人気

▶第40号1955［昭和30年］11月25日発売
「三種の神器」で家電時代到来●「春闘」スタート●広がるヒロポン禍●ジェームス・ディーン、激突死

▶第41号1956［昭和31年］12月2日発売
「太陽の季節」に芥川賞●憧れの2DK！ “団地族”誕生●週刊誌時代到来●スターリン批判の衝撃

▶第42号1957［昭和32年］12月9日発売
石原裕次郎と日活青春映画●南極観測隊、昭和基地建設●ジラード事件の戦慄●リトルロック事件

▶第43号1931［昭和6年］12月16日発売
浅草の喜劇王・エノケン●黄金バットとのらくろ●満州事変と石原莞爾●エンパイアステートビル完成

▶第44号1932［昭和7年］12月22日発売
「満州国」建国●五・一五事件●大森ギャング事件とスパイM●「ターザン」とワイズミュラー人気

▶第45号1933［昭和8年］平成10年1月6日発売
皇太子明仁親王誕生●三陸大津波の恐怖●特高、小林多喜二を虐殺●日本、ついに国際連盟脱退へ

▶第46号1934［昭和9年］1月13日発売
室戸台風の猛威●驚愕の贋作浮世絵「春峰庵事件」●大日本東京野球倶楽部設立●中国紅軍、長征開始

▶第47号1935［昭和10年］1月20日発売
大本教に大弾圧●第四艦隊事件●作られた美談「忠犬ハチ公」●スイング全盛とベニー・グッドマン

▶第48号1936［昭和11年］1月27日発売
日本を震撼させた二・二六事件●ベルリン五輪の“明暗”●西安事件●エドワード8世「王冠をすてた恋」

▶第49号1937［昭和12年］2月3日発売
盧溝橋事件勃発、日中全面戦争へ●戦艦「大和」起工●南京虐殺事件●女性飛行家イヤハート謎の遭難

▶第50号1938［昭和13年］2月10日発売
幻の東京五輪●代用品時代始まる●笑いの慰問団「わらわし隊」●岡田嘉子・杉本良吉、ソ連へ越境

▶第51号1939［昭和14年］2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発

▶第52号1940［昭和15年］2月24日発売
「紀元は二千六百年！」●日独伊三国同盟締結●強まる統制“配給”に“回覧板”●“海の狼”Uボート

▶第53号1981［昭和56年］3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●中国残留孤児の苦難●「窓ぎわのトットちゃん」刊行●第2次臨調スタート

▶第54号1982［昭和57年］3月10日発売
ホテル・ニュージャパン火災●新日鐵で高炉休止続く●日米コンピュータ戦争●フォークランド紛争

▶第55号1983［昭和58年］3月17日発売
東京ディズニーランド、オープン●「おしん」大ブーム●激化する校内暴力●大韓航空機撃墜事件の謎

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

ミニ事典
1975年のキーワード

緑の国勢調査
日本全国に自然がどのような形で残されているかを調べる「自然環境保全調査」。昭和四八年五月から一年半、国土を総合的に調査し数量化した。それによると原生林や自然草原は全国で二〇パーセントしかなく、海岸線の四〇パーセントに工事がほどこされているなど、無秩序な開発により自然が各地で破壊されていることが明らかになった。

国際婦人年

▲国際婦人年のシンボルマークを使ったポスター。

この年一九七五年（昭和五〇）は、男女平等を実現し諸分野への女性進出をうながすための「国際婦人年」と、三年前の国連総会で定められた。メキシコシティで六月一九日に国際婦人年世界会議が開かれ、今後一〇年間に取り組むべき世界行動計画を採択。それに基づき、日本でも総理府が昭和五三年に政府として初めて婦人の現状と施策を総合的にまとめた『婦人白書』を出すなど、官民一体となった女性差別撤廃への動きが活発になった。

土地白書
美濃部革新都政の東京都が都内の土地の所有、取引状況や地価の動きなどをまとめた報告書。自治体で初めての試み。一月九日に発表。法人所有の土地が一一年間で四四パーセントも増加、法人間での転売が頻繁に行われていると指摘、国の無策を批判し、宅地供給は地方自治体が主導的役割をはたすべきだと提言した。

川崎病
五歳以下の乳幼児に多い原因不明の熱性疾患。高熱が続き、手足の紅斑・浮腫などをともなう。小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群の異称。昭和四二年に日赤中央病院小児科医の川崎富作が発表したため、この名がついた。この年二月一五日、文部・厚生両省は、これまでの患者数約一万人、最近急増と報告した。大部分は自然治癒するが、心臓の冠動脈に異常が残ることがある。

マルチ商法
販売員が新しい販売員をネズミ算式にふやして商品を売っていこうという連鎖販売方式。昭和四五年頃に始まり、この年約五〇〇社に。販売員をふやさなければ成立しない商売のため、青少年にまで浸透し、四月九日、警察庁は高校生の関与を防ぐ通達を出した。五六年に改正訪問販売法が制定され、厳しく規制されることになった。

改正政治資金規正法

共同通信社

▲自民党は献金に代わる会費制パーティーで資金調達（3月9日）。

企業献金に資本金別の上限を定めるなどの規制を加えた改正法。七月一五日公布。最高限度額は一億円、公的補助のある団体からの献金は禁止、一万円以上の寄付は公開するなどと定めた。田中前首相の「金権政治」が残した国民の不信を払拭すべく、三木武夫首相は当初、企業献金を三年で廃止するなどの案を示したが、自民党の強い反対にあって実現しなかった。

内ゲバ
仲間同士や同傾向の集団の間での暴力的な抗争。「ゲバ」はドイツ語の「ゲバルト」（暴力）の略。日本では特に反日共系二派、中核と革マルの暴力抗争をさす。二派は安保闘争前に結成された革共同から分裂、革マル派は党建設を、中核派は大衆動員を重視したため、学園闘争・政治闘争の局面で対立が激化、この年には三月に中核派書記長が惨殺され、七月一七日には新橋駅構内で両派六〇〇名が乱闘するなど、二〇人の死者を出した。

ライフサイクル構想
三木首相の私的政策研究団体、中央政策研究所（東畑精一理事長）が提言した、低成長下での国民の生きがいと安定した生活を確保するための構想。生涯設計計画の基盤として持ち家促進、最小限の社会保障、老後の保障、生涯教育制度の四つを提案した。八月一九日の発表後、自民党内に計画調査会が新設されたが、財政難などにより棚上げされた。

乱塾時代
塾の乱立を「爛熟」とかけた「毎日新聞」の造語。同紙は九月三〇日から五四回、このタイトルで学習塾の動向を伝える記事を連載。受験教育は年々激しさを増し、進学準備のための塾通いは次第に低年齢化。小学生の六二パーセント、中学生の四五・六パーセントが塾通いをする時代になった。進学塾の中には半年間で全国に五二〇もの教室を開設するところもあるほどだった。

朝日新聞社

▶夏季合宿中の消灯後に外灯で屋外自習する進学塾生たちの光景。

サミット
西側経済圏の主要国首脳が世界的諸問題について意見交換する会議。先進国首脳会議。フランスのジスカールデスタン大統領の提唱で実現。第一回は一一月一五日、パリ郊外のランブイエ城で開かれ、米、英、仏、西独、伊、日六ヵ国首脳が石油危機後の世界経済再建について意見交換した。日本からは三木首相が参加。以降、毎年開催。第二回からカナダ、第三回からEC代表部が加わった。

スト権スト
三公社五現業の総評系九組合で組織する公共企業体等労働組合協議会（公労協、組合員八六万人）が、ストライキ権保障の明確化などを要求して行ったストライキ。この年一一月二六日から突入、日本全国の交通・通信がマヒした。一二月一日、三木首相が公労法の検討などを内容とする声明を発表。三日、公労協はやっとスト中止を決め、国鉄が運行を開始したのはその翌日、九日ぶりだった。

財政特例法
昭和五〇年度公債発行の特例法。一二月二四日に成立、二五日施行。財政法では公債は建設公債に限られているが、景気停滞による税収の大幅減をカバーするため、特例を設け赤字公債発行を可能にした。これにより、二兆二九五〇億円の公債を発行、予算の公債依存率は二六・四パーセントにまで達し、深刻な赤字財政となった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1975

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕二
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
大江正治 小川卓 鍵和田良輔 川廷榮一 但馬一憲 タイ・カク・チュオン 藤森秀郎 馬渕直城 南良和 朝日新聞社 沖縄タイムス キーストン 共同通信社 CORBIS・BETTMANN 時事通信社 新華社 中国新聞社 中国通信社 日刊スポーツ PPS フジテレビ 双葉社 報知新聞社 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP 浅井企画 キングレコード 佐藤企画 大映 東宝 どおくまんプロ ポニーキャニオン 吉田記念テニス研修センター ワクイ音楽事務所 大宅壮一文庫 近代映画協会 逓信総合博物館 日本近代文学館 向井潤吉アトリエ館

雑誌 23701-10/7 Ⓛ-2001/1/1 T1123701100561

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社